

GUIDE BOOK 2027

日本社会事業大学大学院

GRADUATE SCHOOL OF JAPAN COLLEGE OF SOCIAL WORK

日本の社会福祉を
先導する2つの研究科

福祉マネジメント研究科

専門職大学院

実践力とマネジメント力の向上を目指す

社会福祉学研究科

研究大学院

科学的研究を通じ社会福祉実践の
向上や発展に貢献する

フロンティアで究めよう。

社会福祉とソーシャルワークの深奥へ

1946年に政府からの委託を受け、

日本初の社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立された日本社会事業大学。

日本の社会福祉に変革をもたらすリーダーを育成するべく、

「福祉マネジメント研究科(専門職大学院)」と

「社会福祉学研究科(研究大学院)」を設置しています。

ソーシャルワークの現場で高度な専門性を発揮して活躍する人。

社会福祉学分野で実践的かつ学術的な新しい知見を見いだす人。

誰かの幸せを願い、探究するその人の想いに本大学院は応えます。

福祉研究の原点にして「フロンティア(最前線)」であるこの場所から、

未来を切り開くその挑戦を加速させましょう。

日本社会事業大学大学院

INDEX

教員インタビュー	03
2つの研究科について	05
福祉マネジメント研究科(専門職大学院)	07
カリキュラムの方針と構造	09
履修形態とキャリア形成支援	11
教員×院生対談	13
教員紹介	14
修了生の声	15
社会福祉学研究科(研究大学院)	17
博士前期課程(修士課程)	19
博士後期課程(博士課程)	21
教員×院生対談	23
教員紹介	24
修了生の声	27
学長メッセージ / 沿革	29
組織図	30
学費	31
奨学金	32
入試概要 / アクセス	33

教員インタビュー

福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)

実践と理論をつなぎ、
ソーシャルワークのさらなる発展をめざす。

病院勤務で実感した現場の課題から 大学院への進学を決意

専門職大学院を設立した当初から教員をしています。開設から20年が過ぎ、社会や福祉現場の変化にともない、実践研究のテーマや課題は変化してきていると思いますが、実践課題に取り組んでいこう、実践を切り開いていこう、という院生のみなさんを応援する気持ちで続けてきました。ソーシャルワークの理論に関する科目を多く担当していますが、実践と理論を行き来する中で、専門知を活用する力、実践力を高めることが、ソーシャルワークの発展につながると考えています。私自身、日本社会事業大学を卒業した後、10年の病院でのソーシャルワーク実践をとおして、現場で感じた課題に取り組もうと思って大学院に進学した経緯があります。研究課題に向き合うのは自分自身ですが、恩師や仲間たちに支えられ、ディスカッションをとおして、力をつけ、さらに探究心を高めてきたと思います。

多様な現場から集う仲間と学び、 対話をとおして新しい視点に出会う

専門職大学院には、保健医療福祉等の様々な実践現場から院生が集まってきています。それぞれ異なる考え方や実践の特性をもっていますので、ゼミは様々な角度から物事を捉えなおし、新たな気づきを得て視野を広げる貴重な場です。時には鋭い質問が投げかけられることも、また共感しあうことも、自分の知らない分野の実践状況を知ること、仲間がいてこそそのゼミの醍醐味です。実践も研究も一人で抱えこむのではなく、仲間との交互作用から次の展開を目指していくことが可能になるのだと思います。専門職大学院での学びを深化させ、専門性を高めて、実践現場に還元して行ってほしいと思います。

木戸宜子 教授

研究テーマ

地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、
ソーシャルワークスーパービジョン



日本の社会福祉学の原点である本学は、「福祉のリーダーを養成する」という使命のもと、日々の教育や研究に取り組んでいます。福祉マネジメント研究科の木戸先生、社会福祉学研究科の亀崎先生のインタビューから、最新の教育内容や研究成果をご紹介します。

社会福祉学研究科 (研究大学院)

「こどもの最善の利益」を追求し、
保育現場の葛藤解決に向けた専門職倫理を。

亀崎美沙子 准教授

研究テーマ

子育て支援、乳幼児教育・保育、保育者の専門職倫理



保育の現場から 投げかけられた「問い」

大学時代、保育を学ぶなかで「こどもの抱える問題を解決するには、家庭全体へのアプローチが必要だ」と痛感し、先進的な子育て支援の現場に足しげく通っていました。研究の道に進んだ決め手は、現場の保育者から投げかけられた「子育て支援は、本当にこどものためになるのですか」という切実な問いです。保育者には「保育」と「保護者への支援」という二重の職務があり、双方に誠実であろうとするほど、保護者のニーズとこどもの利益の間で板挟みになり、「子育て支援の葛藤」が生じます。私はこの課題を解決する手立てとして、保育者の専門職倫理にフォーカスした研究を行ってきました。これまで日本では扱われることの少なかったテーマですが、現場の保育者を対象とした各種調査を行いながら、実践に即した研究に取り組んでいます。

こどもの権利が守られる 社会の実現に向けて

研究においては「実践に役立つこと」と「成果を現場に還元すること」を何より大切にしています。調査に協力してくださる実践者のためにも、無料で活用できる子育て支援ハンドブックを作成するなど、研究成果を現場に還元することを心がけてきました。苦労もありましたが、研究成果が現場で役立てられていることは大きな喜びです。今後は、昨今の不適切なかかわりに関する問題も踏まえ、こどもに対する倫理責任や行動規範をさらに明確にしたいと考えています。これからも、研究を通して、すべてのこどもが質の高い教育・保育を受け、またその権利が守られる社会の実現に貢献したいと考えています。

福祉マネジメント研究科

専門職大学院

福祉マネジメント研究科
Webサイト



詳細は P.7

実践力とマネジメント力の向上を目指す人に

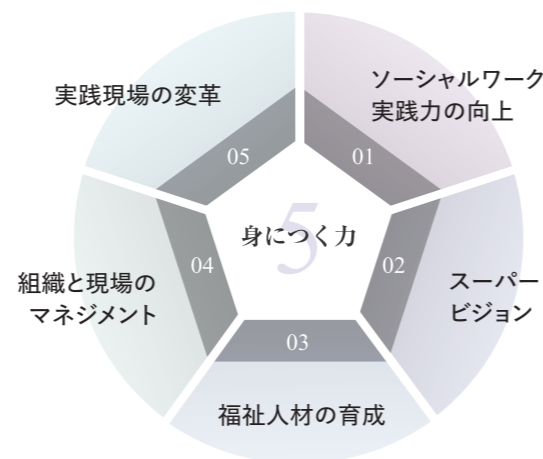
社会が大きく変化するなかで、私たちは社会福祉を普遍的なニーズとして認識するようになりました。しかしながら、それと同時に、生活困窮、虐待、孤立、社会的排除、貧困の連鎖など、複雑で深刻な問題を抱える人々は増え続け、自らの実践と経験だけでは解決できない状況が次から次へと生まれています。

「分野を越えて学びたい」「これまでの実践を振り返りたい」「支援のあり方を見つめ直したい」「人材育成の方法を学びたい」「福祉経営の知識を体系的に獲得したい」。専門性を深め、視野を広げること。チームや組織を理解し、他機関との連携を進めること。これらのニーズに応え、高度な福祉人材を育成することが、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)のミッションです。

身につく力

福祉の現場経験を糧として学びなおし
実践力とマネジメント力の向上を目指します。

- 1 ソーシャルワーク実践力の向上
- 2 スーパービジョン
- 3 福祉人材の育成
- 4 組織と現場のマネジメント
- 5 実践現場の变革



福祉マネジメント研究科(専門職大学院) Q&A

Q. 社会福祉学研究科(研究大学院)との違いは何ですか？

A. 実践現場で働き続けたい人が学びます。

社会福祉学研究科(研究大学院)は研究者の育成に重点を置き、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)は実践家の育成に重きを置いています。実践力とマネジメント力の向上を目指します。

Q. 働きながら学べますか？

A. 働きながら学びやすい環境を整えています。

2年間で計画的にカリキュラムを履修できる「長期履修制度」があります。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。遠方からの履修生に配慮し、授業はオンライン授業(同時双方向型遠隔授業)も多く取り入れています。また、平日の授業は夜間に行います。詳細は P8の「Pick Up」に掲載しておりますので、あわせてご確認ください。

Q. 専門実践教育訓練給付制度について教えてください。

A. 学費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

標準修業年限(1年)で修了する2027年4月入学生で雇用保険の加入期間等条件を満たした方が申請できます。給付額の上限は64万円です。

こんな方にオススメ □ 支援のあり方を見つめ直したい方 □ 人材育成や福祉経営の基本を体系的に学びたい方 など

社会福祉学研究科

研究大学院

社会福祉学研究科
Webサイト



詳細は P.17

科学的研究を通じ社会福祉実践の向上や発展に貢献できる人に

福祉に求められるものは時代とともに変わります。そこで必要となるのが、現状での課題をしっかりと捉え、さまざまな視点から検証し、将来に向けて新しい提案ができる専門家です。本大学院では、より良い社会福祉実践を実現するために、研究的な視点を持つ実践者、および実践的な研究者を育成しています。

博士前期課程(修士課程)

現代のさまざまな福祉ニーズを科学的に明らかにし、その解決に有効な援助方法や支援モデル、福祉制度・政策のあり方を追求する方法を身につけます。

前期課程で身につく力

- 1 社会福祉援助方法を科学的に追求する能力
- 2 社会福祉実践プログラムを科学的に追求する能力
- 3 社会福祉制度・政策のあり方を科学的に追求する能力
- 4 社会福祉理論を科学的に追求する能力

博士後期課程(博士課程)

自立した研究能力を持ち、社会福祉実践の向上に役立つ研究を行って社会に影響を与えることのできる実践研究者および実践の中で、研究ができる人材を育成する教育研究者を養成します。

後期課程で身につく力

- 1 研究課題を科学的に追求する自立した研究能力
- 2 社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究能力
- 3 社会福祉学の豊かな学識
- 4 国際的、学際的な視野から各専門領域で活躍できる能力

社会福祉学研究科(研究大学院) Q&A

Q. 他大学院との交流はありますか？

A. はい。大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。

本学を含め12校の福祉系大学院で構成する大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。他大学院の科目を委託聴講したい場合は、指導教員の了解のもと2単位1,000円で10単位を限度として委託聴講できます。

Q. 働きながらでも通えますか？

A. 福祉現場や教育機関の方など、大勢の社会人学生の方が本学で学んできました。

授業は講義や研究演習、論文指導を木・金・土曜日に集中して開講しています。授業形態も、対面だけでなく、多くの授業がオンライン受講できるため、今まで以上に両立しやすくなっており、遠隔地からの進学も増えています。

Q. 教育訓練給付制度は適用されますか？

A. 指定講座となっているので、適用されます。

社会福祉学研究科(博士前期課程)は、一般教育訓練給付制度の指定講座となっています。給付条件の対象となる方に費用の20%(上限10万円)が支給されます。

こんな方にオススメ □ 社会福祉に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を目指す方 □ 研究者・実践家を育てる教育者を目指す方 など

福祉マネジメント 研究科

専門職大学院

給付金制度と対象講座

- 専門実践教育訓練給付金制度
- 厚生労働大臣指定教育訓練講座

8つの特長

1 実践力の向上を目指す

基本の再確認と最新の動向・技法を学び、対人支援専門職としての実践力の向上を目指します。

2 マネジメントできる力の獲得

現場のサービス向上を図り、チームや組織をマネジメントできる力の獲得を目指します。

3 組織のあり方等について 振り返り言語化

事例研究やスーパービジョンを通して、自身や所属組織のあり方等について振り返り言語化します。

4 認定社会福祉士の単位を取得

多数の講義が、認定社会福祉士の大学院ルートに位置づけられています。

5 1年間で修士(専門職)の学位を取得

最短で1年間、現職継続者で長期履修者の場合には2年間で、修士(専門職)の学位が取得できます。

6 遠隔地でも仕事をしながら学べる

オンライン授業も多く取り入れているため、北海道や沖縄など遠隔地からの入学生も在籍しています。

7 アクセスが便利

対面授業は、清瀬キャンパス(西武池袋線「清瀬」駅から徒歩6分)と文京キャンパス(東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩5分)で行います。

8 多様な仲間との出会い

多様な仲間との交流や自由で対等な議論を通して、すぐに役立ち、生涯にわたるネットワークが築けます。

実践とマネジメントの両輪で、
現場にイノベーションをもたらす。



教育理念

日本社会事業大学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的として、日本で最初に開設された福祉専門職大学院です。人権の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重といったソーシャルワークの価値に基盤を置き、人々のニーズと社会の変化に対応し、実践の改善と開発を進め、社会の変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

本学では、教育目標を実現するために、以下のような方を入学者として求めています。

- ア.自己と他者を人格を持つ個人として尊重できる人
- イ.人々のウェルビーイングは、その人が置かれた環境と深く関係しているという考え方を理解し、その人をとりまく環境である家族、組織、地域及び社会に対して関心を高く保ち、これらの環境の改善や改革に取り組む意志を有する人
- ウ.自身の社会福祉実践力の向上はもとより、自己が属する組織や団体の福祉実践力、あるいは地域や社会の福祉力の向上に意欲や関心を有する人
- エ.社会福祉などの対人援助実践、あるいは社会福祉などの機関・組織・事業所において運営管理の業務に携わり、自らの実践を幅広く振り返る経験を有する人

「アドミッション・ポリシー」の詳細は
本学Webサイトをご確認ください。



修業年限	1年(標準修業年限) 2年(長期履修制度を利用する場合)
入学定員	50名
学 位	福祉マネジメント修士(専門職)

» 研究科長メッセージ



少子高齢化、多死社会、人口減少、度重なる災害、格差拡大など、先行きが不透明な現代において、福祉への期待は益々高まっています。専門職大学院ではこのような時代の現場を支える福祉専門職、すなわち、状況を的確に見極め、柔軟に対応し、ソーシャルアクションや社会変革をもたらす専門職の養成を目指します。

本研究科は、日本で最も歴史のある福祉系専門職大学院です。20年以上かけて培ったリカレント教育の手法をもとに、今日的なカリキュラム、オンライン授業の活用、週末夜間集中授業など仕事を続けながら学べる体制を整え、現場経験豊富な講師陣が指導にあたります。多様な専門職、さまざまな立場の方々が集い、意見を交わしながら学び合い、実践力とマネジメント力を高めていきます。

本研究科で教育の核となるのは、経験を学びに変える力で、言語化、省察、対話、批判的思考という4つの力を磨いていきます。最新理論による学びと実践への活用を繰り返して考察を深め、職場や地域に実践知をもたらす、地域共生社会の一端を担うことのできる省察的实践家を養成します。

福祉マネジメント研究科 研究科長
鶴岡 浩樹 教授

Pick Up

仕事と両立しやすい授業形態

授業は木・金曜日と土曜日で実施します。木曜日および金曜日の授業は、すべて夜間のオンライン(Zoom)のみで実施いたします。土曜日については、授業内容に応じて「対面」を中心しつつ「オンライン」も一部取り入れています。

※詳細は時間割をご確認ください。
※オンライン授業は全て同時双方向型遠隔授業です。
※オンラインで受講する場合は、各自にてインターネット環境、ノートPC等によるWebカメラ、マイクを用意していただく必要があります。

2つの履修形態

1年間の「標準履修」を基本とし、2年間で履修する「長期履修」もあります。「長期履修」は就労している方が対象です。受験時に申請し、決定後の変更はできません。



カリキュラムの方針と構造

社会状況の変化に伴い、福祉現場の課題は多様化、複雑化しています。支援する側も複数の分野にまたがり、様々な制度の知識と、多職種・多機関と協働できる力が必要とされています。このような現状を踏まえ、人権の尊重と共生社会を担う人材養成を念頭に、実践力の向上や組織運営などマネジメント力の獲得を目指します。自らの実践を省察することを教育の中核に置きます。質の高い福祉実践に有益な知識や理論を獲得したうえで自らの実践を振り返り、記述し、概念化し、評価し、次なる実践に結びつける、このサイクルを意図的に展開できる人材の育成をカリキュラム方針に据えています。

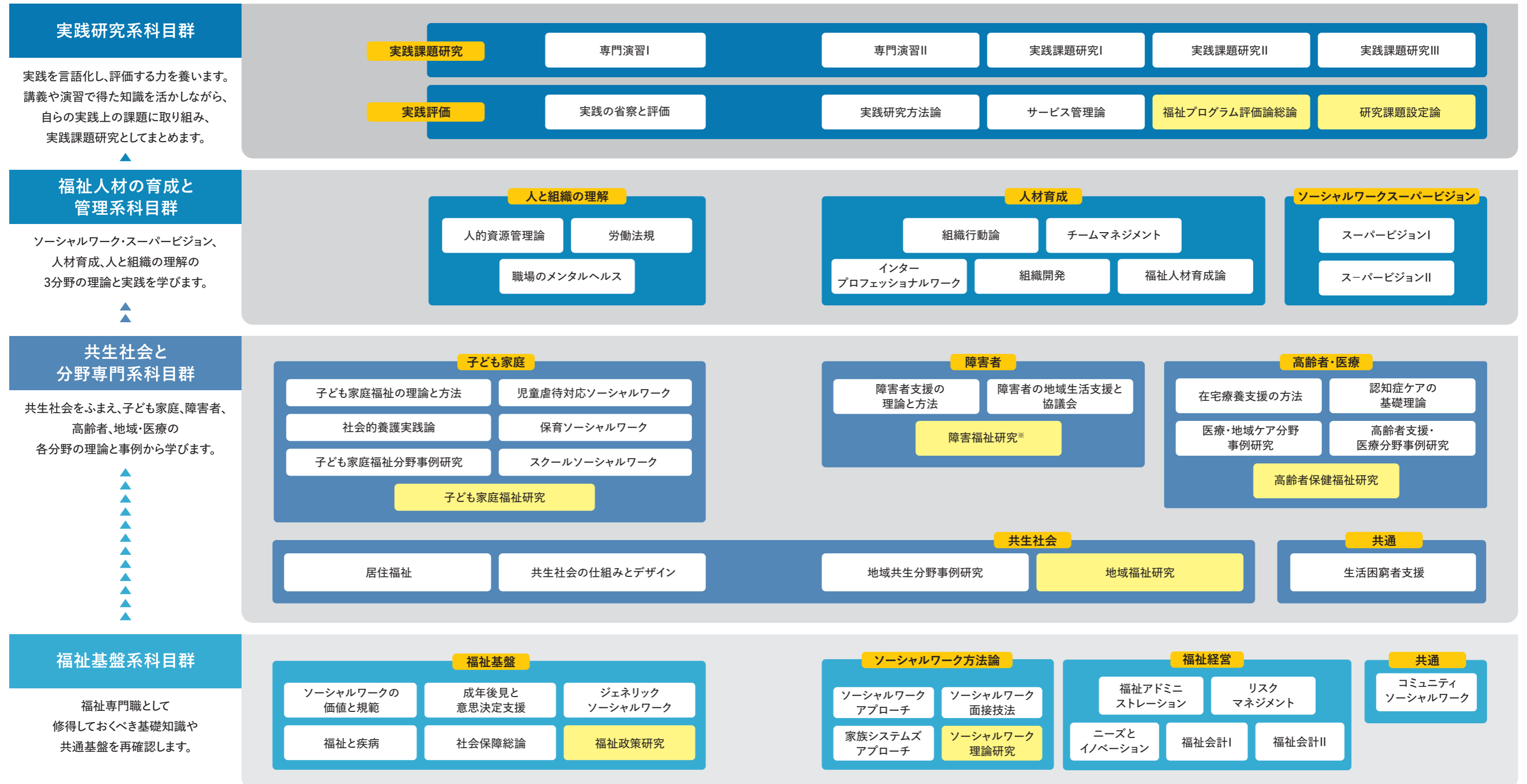
Movie

専門職大学院(福祉マネジメント研究科)紹介動画

専門職大学院の学びの特色や、教員・院生のインタビューを紹介しています。研究への思いを、ぜひご覧ください。



[2026年度参考]



特別講座I
(災害ソーシャルワーク)

社会福祉学研究所(研究大学院)との合同授業
※「障害福祉研究」は現在、休講です。

履修形態とキャリア形成支援

社会福祉領域は実践と学問の距離が近い分野です。福祉マネジメント研究科(専門職大学院)では、仕事と学びの両立を積極的に支援する体制を整えることで、実践を学びに活かし、学びを実践に活かす、この循環を促します。長期履修制度、修了後の学びを支援する修習生制度、認定社会福祉士の研修認定科目などを整えています。

履修形態

平日(木・金)の講義は18:50からオンライン(Zoom)で実施します。働きながらでも継続しやすい学習環境を提供しています。平日の日中も学びにあてられる方は、社会福祉学研究科の授業(主に対面授業)を履修・聴講することも可能です。土曜日の講義・演習については、内容に応じて「対面(清瀬または文京キャンパス)」または「オンライン」での実施となります。

1年間 | 標準履修の流れ

4月	●入学式 ●オリエンテーション ●所属ゼミ決定
6月	●実践研究計画書提出 前期の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
9月	●実践研究中間報告会(対面のみで実施) 前期に取り組んだ実践研究について発表する。
10月	●実践研究計画書提出 後期の実践研究計画を提出する。
1月	●実践研究報告書の提出
2月	●実践研究報告会(対面のみで実施) 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	●学位授与式(修了式)

標準修業年限は1年です。年間10回、金曜日の午後に演習がありますが、すべてオンラインで実施します。1年間で修士の学位を修得します。

〈履修例〉 ※2026年度参考

	月	火	水	木	金	土
1限 (9:00~10:30)						講義
2限 (10:40~12:10)						
3限 (13:00~14:30)						
4限 (14:40~16:10)					演習 10回	演習 20回
5限 (16:20~17:50)						
6限 (18:50~20:20)				講義	講義	計30回
7限 (20:30~22:00)						

■ オンライン講義/演習 ■ 対面講義/演習

2年間 | 長期履修の流れ

1年次	4月	●入学式 ●オリエンテーション ●所属ゼミ決定
	6月	●実践研究計画書提出 1年目の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
	1月	●実践研究中間報告会(対面のみで実施)
2年次	6月	●実践研究計画書提出 2年目の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
	12月	●実践研究報告書の提出
	1月	●実践研究報告会(対面のみで実施) 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	●学位授与式(修了式)	

仕事と学びの両立を支援するために長期履修制度を設けています。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。2年間で修士の学位を修得します。平日の演習は設けられておらず、2年かけて土曜日に実施します(年15回×2年)。

〈履修例〉 ※2026年度参考

	月	火	水	木	金	土
1限 (9:00~10:30)						講義
2限 (10:40~12:10)						
3限 (13:00~14:30)						
4限 (14:40~16:10)						演習 15回
5限 (16:20~17:50)						
6限 (18:50~20:20)				講義	講義	2年で 計30回
7限 (20:30~22:00)						

■ オンライン講義 ■ 対面講義/演習

修習生制度

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)を修了後、手頃な費用負担で学びを継続できる制度です。講義の聴講が可能です。1年更新で原則2回まで利用できます。修了後、一定期間、実践に集中した後に制度を活用することも可能です。

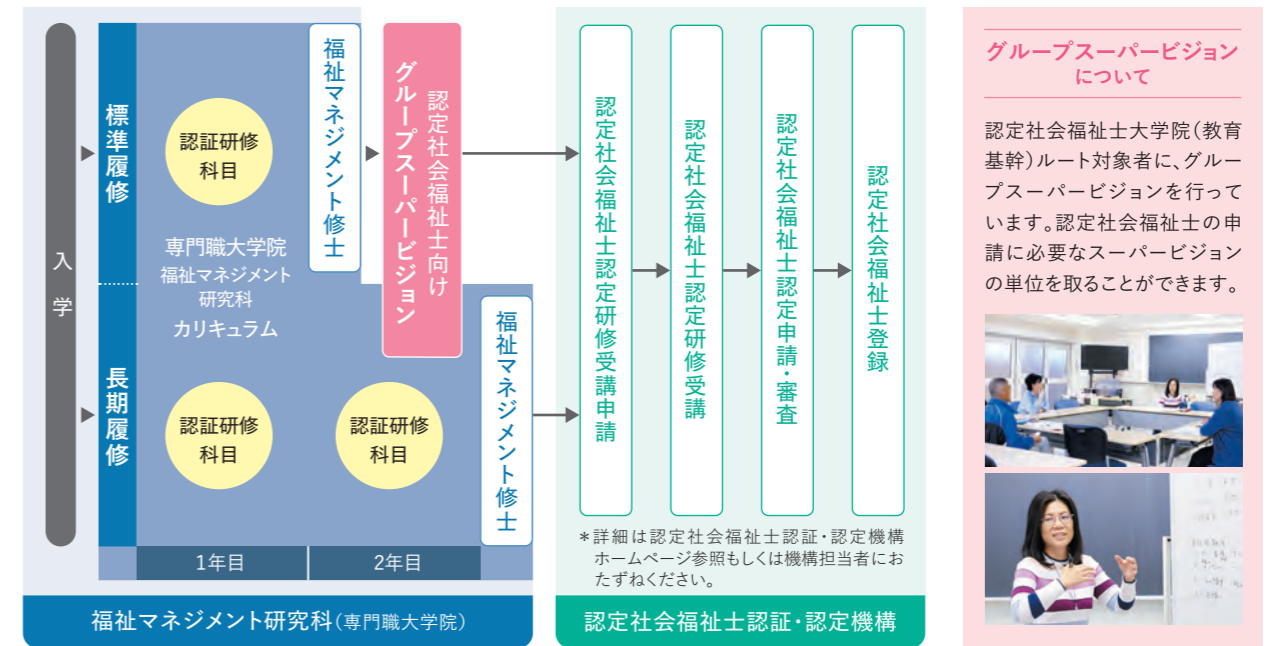
キャリア形成支援

充実したカリキュラムで認定社会福祉士を養成

社会福祉士の上位資格として、認定社会福祉士が設けられています。本学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)で開講している授業のうち26科目は認定社会福祉士の研修科目として認められています(2026年度)。認定社会福祉士認定・認定機構は2020年度に、認定社会福祉士の取得ルートに「大学院(教育基幹)ルート」を新設しました。これにより、本学福祉マネジメント研究科(専門職大学院)在籍中に、「大学院(教育基幹)ルート」で必要とされる18単位のうち、スーパービジョン実績を除く認定研修科目の16単位を選択し単位修得することが可能となります。またスーパービジョン実績についても、在学中もしくは修了後一定期間内において、本学スーパーバイザー教員に希望することができます。※認定制度の詳細は、認定社会福祉士認定・認定機構ホームページでご確認ください。

本学での認定社会福祉士大学院(教育基幹)ルートへの対応

[2026年度参考]



※認定社会福祉士制度においては、研修実施機関として、①職能団体 ②教育機関(大学、大学院など) ③国及び地方公共団体(指定及び委託も含む) ④社会福祉法人及び医療法人等 ⑤その他の団体(営利法人を含む)などが想定されています。
※研修認定は「認定社会福祉士認定・認定機構」にて行われます。

※一部変更になる場合があります。

認定社会福祉士制度とは

高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして実践力を認定する「認定制度」で、「認定社会福祉士」及び「認定上級社会福祉士」の2種があります。「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正時に衆議院及び参議院で附帯決議された「専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」に基づき実施され、制度運営、研修実施団体の認定、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士の認定は、「認定社会福祉士認定・認定機構」にて行われます。

認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、所属組織を中心とした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することが認められた人です。

認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観を持って個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進などに関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた人です。

詳細は、認定社会福祉士認定・認定機構ホームページ
<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>



Professor 教員 × 院 生 Graduate student

教員と院生が、研究の意義や学びの魅力について語ります。

分野を越えて見つけた「福祉の原点」 問いと対話が導く、次なるキャリア

中川 人生の節目を迎え、「これからの職業人生をどう深めるべきか」という課題に向き合うべく、大学院に進学しました。長年、障害福祉に携わってきましたが、あえて異分野を専門とされる須江先生の門を叩いたのは、自分の可能性を広げなかったからです。ゼミでは、就労支援の現場における「生活面も含めた包括的な支援の実施」という課題に向き合い、就労と生活を一体的に捉えるアセスメントシートの開発に挑みました。**須江** 現場への熱い思いを原動力にしている点が強みですね。私の役割は、中川さんの情熱を実現可能な研究にすることでした。「現場の意識を変えたい」という言葉に「どのように実行するのか」と問いかけ、ゼミのみならず一緒に会話を重ねました。やがて、中川さん自身で「ツールを通じて現場を変える」という解決策を導き出し、アセスメントシート

の開発に至りましたね。**中川** 先生との対話やゼミ生との率直な議論を通じ、対象者の背景を深く理解する大切さに立ち戻れました。今後も、相談支援の視点を生かして開発したシートを活用し、分野を超えた就労支援の連携強化につとめます。児童や高齢者など異分野の仲間と学び「社会福祉の領域は幅広いが、向かうべき方向は同じである」という確信を得たのも、収穫でした。**須江** 経験を積んだベテランだからこそ、限界を感じたり葛藤を抱えたりするものです。理論と誠実な会話はその閉塞感を突破するエネルギーにもなります。これからも、既存の枠組みを超えた新たな支援の形を創造してほしいですね。**中川** 現場では、大変でもここには共に悩み、支え合える仲間と先生がいます。その存在を励みに、今後も挑戦し続けます。



福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) 中川 亜矢子 さん
福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) 須江 泰子 准教授

「答えのない悩み」を分かち合い、 新たな一歩を踏み出す居場所

山口 私は熊本の障害福祉現場でサービス管理責任者等の養成にかかわっています。現場で不安や悩みを抱える人の多さに、「法定研修を補完する場が必要ではないか」と問題意識を抱えていました。課題の解決をめざし、科目履修生として大学院の門を叩いたのが始まりです。様々な問題意識を抱えながら学び直す先輩の姿を目の当たりにし、入学を決意しました。**井上** 山口さんとは科目履修生の頃からの付き合いですね。私の専門は高齢期の住まいですが、教員と院生の実践領域が一致する必要はないと考えています。大切なのは、現場で生じたモヤモヤをどう探究するか。ゼミには行政や司法ふくめて多様な領域で働く院生が集まっています。我流のマネジメントを根拠に基づいてみなで整理し、現場で受け継がれる知見へと発展させていくことが大切です。

山口 私にとってゼミは、単なる学びの場を超えた「居場所」です。井上先生からの問いかけで、自身の凝り固まった思考に気づくことが多くありました。また、研究が思うように進まなかった時、「実践のための研究なので、今は焦らずに実践に集中して大丈夫」と声をかけてくださったことが忘れられません。また、仲間の存在も大きな支えでした。自分には課題解決のために熊本で立ち上げた「実践共同体」と、「井上ゼミ」という2つの大切な居場所があります。それが何よりも大きな財産になっています。**井上** 答えのない悩みを伝え合える関係性をゼミで築けたことが、何よりですね。**山口** 他領域の専門職と互いを尊重し合い、化学反応を起こせる面白さがここにはありません。大学院での学びを糧に、よりよき実践につなげていきます。



福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) 山口 洋平 さん
福祉マネジメント研究科 (専門職大学院) 井上 由起子 教授

教員紹介

[担当科目は2026年度開講科目]
★: 専門演習Ⅰ・Ⅱ、実践課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
※「SW」はソーシャルワーク、「SV」はスーパービジョンの略称です。
QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

鶴岡 浩樹 研究科長 教授



【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町市民病院、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年、つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポート医、日本医師会認定産業医。
【主な研究分野】地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット
【担当科目】★/実践の省察と評価/実践研究方法論/福祉人材育成論/インタープロフェッショナルワーク/高齢者支援・医療分野事例研究/在宅療養支援の方法/高齢者保健福祉研究/福祉と疾病



▶メッセージ 総合医として地域医療に従事して32年目。大学病院、一般病院、診療所、介護保険施設など地域を舞台に様々な設定で、保健・医療・福祉・介護に関わる方々と仕事をしてきました。この経験を活かし、皆さんと共に現場の課題を考えていきたいと思えます。

木戸 宜子 教授



【略歴】1989年、日本社会事業大学卒業。社会福祉士。1990年、国立東京病院ソーシャルワーカーとして勤務。2002年、日本社会事業大学研究科専任教員。2003年、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。2004年、日本社会事業大学専門職大学院助教授を経て現職。
【主な研究分野】地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン
【担当科目】★/実践研究方法論/SVI/ジェネリックSW/インタープロフェッショナルワーク/医療・地域ケア分野事例研究/SWアプローチ/家族システムズアプローチ/SWの価値と規範



▶メッセージ 昨今、ソーシャルワーク実践、スーパービジョンが目目されてきています。実践者として専門性を高めるには、実践のふりかえり、意味づけが必要です。そのために実践の根拠としてのソーシャルワーク理論/アプローチを重視し、実践内容を客観的に分析し、考察する視点を養っていきたく思います。

須江 泰子 准教授



【略歴】1992年、立教大学文学部教育学科卒業。2003年、筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻修了。社会福祉士、公認心理師、臨床心理士。埼玉県庁に福祉職として入職し、児童相談所を中心に勤務。東京大学医学部附属病院精神神経科を経て2022年4月本学着任。2025年より現職。
【主な研究分野】子ども家庭福祉、児童虐待対応と予防、支援者支援、ソーシャルワーク面接技法、人材育成
【担当科目】★/子ども家庭福祉の理論と方法/児童虐待対応SW/子ども家庭福祉分野事例研究/SVII/社会的養護実践論/SW面接技法/実践の省察と評価



▶メッセージ 実践上の課題や葛藤に向き合いながら、志ある仲間と対話を重ね、複雑な社会課題を多角的な視点から共に考え続けられる場を大切にしています。

瀧脇 憲 特任准教授



【略歴】2002年、東京外国語大学大学院修士課程修了。東京・山谷地域で生活困窮者支援を行うNPO法人自立支援センターふるさとの会に入職。同会で常務理事、代表理事などを歴任し、山谷では他のNPO、医療・介護関係者等と「地域ケア連携をすすめる会」を運営してきた。現在は居住支援全国ネットワーク常任理事。他に、ホームレス支援全国ネットワーク、全国日常生活支援住居施設協議会の理事、認知症当事者勉強会世話人等を担う。2008年～2021年東京外国語大学非常勤講師(社会学)。
【主な研究分野】ホームレス、生活困窮者支援、すまい・まちづくり、ケアの思想、ソーシャルセクター、アドボカシー
【担当科目】★/ソーシャルワークの価値と規範/ニーズとイノベーション/障害者支援の理論と方法/地域共生と分野専門特別講義I/障害者の地域生活支援と協議会



▶メッセージ 学生時代から障害者の活動に関わり、卒業後は生活困窮者支援を通して研究・提言に携わってきました。皆さんとともに実践課題の意味を深め、創発的な議論ができることを期待しています。

井上 由起子 教授



【略歴】1990年、日本女子大学卒業。清水建設勤務を経て、横浜国立大学工学研究科修了。博士(工学)。2001年、国立医療・病院管理研究所 主任研究官。組織再編により国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官。2012年より現職。一級建築士、社会福祉士、宅地建物取引士。
【主な研究分野】高齢者福祉、居住支援、高齢期の住まい、福祉人材育成、福祉経営
【担当科目】★/実践の省察と評価/サービス管理論/組織行動論/居住福祉/福祉会計I、II/チームマネジメント/共生社会のしくみとデザイン



▶メッセージ 住宅と福祉がクロスする領域を専門とし、本学では人材育成、サービス管理、チームマネジメントなどを担当しています。実践力の向上に資する組織やチームのあり方について、理論と実践を結びながらディスカッションし、切磋琢磨できる学びの場の構築を目指しています。

北川 進 准教授



【略歴】1996年、日本社会事業大学卒業。東北福祉大学大学院総合福祉学研究科修士課程修了。児童養護施設指導員を経て宮城県社会福祉協議会入職。主に地域福祉業務に携わり、2012年4月より2年間に、東日本大震災被災地である石巻市社会福祉協議会に派遣され、ささえあい総括センター所長として被災者支援業務に従事。発災から11年間被災者支援業務を担当。2023年4月本学着任。社会福祉士。
【主な研究分野】災害時ソーシャルワーク、災害ボランティア支援、社会福祉協議会における地域福祉展開
【担当科目】★/コミュニティSW/生活困窮者支援/地域共生分野事例研究/共生社会の仕組みとデザイン/SWの価値と規範/災害SW/リスクマネジメント



▶メッセージ 福祉現場では、理論と情熱だけでは超えられないことが沢山あります。更なる理論の学びと院生仲間から得られる様々な視点を吸収しながら、その壁を超える答えをご自身でつかんでください。

永島 徹 特任教授



【略歴】2009年、日本社会事業大学大学院修士課程修了。2014年、同大学院後期課程満期退学。精神科ソーシャルワーカーとして当事者の社会復帰施設に従事。その後、一般民間企業の経験を経て、高齢者在宅介護支援センター勤務。2003年にNPO法人風の詩を設立、理事長に就任。
【主な研究分野】認知症の人や家族の地域生活支援、認知症施策とチームオレンジ、意思決定支援、共生社会とソーシャルワーク、ソーシャルアクション
【担当科目】★/認知症ケアの基礎理論/福祉アドミニストレーション/成年後見と意思決定支援



▶メッセージ 認知症の人や家族の地域生活支援を入口にした、地域共生社会に向けたソーシャルアクションを実践しているからこそ見えてきた様々な現実があります。今とこれから必要とされる専門職の理論と実践力を、みなさんとともに高めていきましょう。

兼任教員(本学教員)		※黒字: 担当科目	
内田 宏明 教授	子ども家庭福祉研究	賀川 信幸 教授	研究課題設定論、福祉プログラム
小原 真知子 教授	SW理論研究		評価論総論
木村 容子 教授	SW理論研究	菱沼 幹男 教授	地域福祉研究
佐々木 貴雄 教授	福祉政策研究	倉持 香苗 准教授	地域福祉研究
非常勤講師		※黒字: 担当科目	
朝日 雅也 講師	障害者支援の理論と方法	園田 巖 講師	保育SW
江畑 直樹 講師	組織開発	猶木 貴彦 講師	労働法規
大榎 重光 講師	職場のメンタルヘルス	林 晃弘 講師	人的資源管理論
郭 理恵 講師	スクールSW	古都 賢一 講師	社会保障総論
木幡 伸子 講師	家族システムズアプローチ	松山 毅 講師	SWの価値と規範

修了生の声

進学を決めた理由やどのような生活を過ごし、どのような学びを得たか、修了生に答えていただきました。

※掲載されている内容は取材当時(2026年3月)のものです。



社会福祉士に求められる 成年後見活動の あり方を追究

1年履修

橋本 正由子さん
2026年3月 福祉マネジメント研究科 修了
橋本社会福祉士事務所 所長

研究
テーマ 社会福祉士専門職後見人の
サポート体制の在り方

成年後見人を生業とする個人事務所を運営しています。被後見人とともに歩み、ご本人の望む生活を一緒に考えていくこの仕事には、大きなやりがいがあります。大学院へ進学したのは、社会福祉士ならではの成年後見活動とは何かをじっくり考えたかったからです。在学中は、後見活動の質を高めるためのサポート体制について研究。これまで行ってきた実践をソーシャルワークの理論や価値に当てはめ、見つめ直せたことは大きな収穫です。今後も研究を続けるとともに、社会福祉士の支部幹事として、大学院で得た知見を研修企画や会員同士の支援ネットワークづくりに還元したいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫 使命感と学びの楽しさが原動力に

一人で事務所を運営しているため、業務の前倒しと徹底した時間管理が不可欠でした。裁判所への報告書提出と課題が重なる大変な時期もありましたが、被後見人の人生に最期まで寄り添うという使命感や学びの楽しさが、日々の原動力となりました。



新たな視点で職場を捉え、 実践知を言語化する力が 養われた

1年履修

村越 満さん
2026年3月 福祉マネジメント研究科 修了
合同会社秀山会 就労継続支援B型 Mont Blanc勤務

研究
テーマ アルコール依存症治療病棟における
ソーシャルワーカーの実践省察

精神科病院に勤めていた頃、組織のあり方やアディクション(依存症)のある方とのかかわりなど数々の悩みを抱えていました。大学院在学中はパラレルチャート[※]と研究協力者からのリフレクトを用いた実践省察に取り組み、実践の整理と言語化を経て、クライアントへの向き合い方が変化しました。ソーシャルワーカーの専門性と「同じ世界を共に生きる生活者としての視点」を使い分けられるようになり、学びを通じて実践が変わっていく手応えを確かに感じた瞬間でした。現在は、就労継続支援B型事業所で利用者の地域での暮らしを支援しています。今後も実践知を言語化して支援に還元しながら、ソーシャルワーカーとして成長していきたいです。

※カルテには書かない、クライアントに抱いた感情や思考などを記述する手法

学問と仕事を両立する工夫 通勤時間の活用と同僚のサポートがカギに

通勤時間に授業のリアクションペーパーの記入やレポート作成に取り組み、文献を読み進めるようにしました。仕事を定時で終え、カンファレンスの日程を調整するなど自ら工夫も重ねましたが、同僚のサポートがあってこそ両立できたと感じます。



「支える人」のケアに焦点を当て、 相談員が働きやすい職場づくりを

2年履修

上村 悦子さん
2026年3月 福祉マネジメント研究科 修了
愛知県保健医療局健康医務部医務課
こころの健康推進室 主査

研究
テーマ 精神保健福祉相談員が働きやすい職場づくりとは
～Z県におけるアンケート調査を踏まえた一考察～

私は行政の精神保健担当部署で、精神保健福祉相談員として地域のメンタルヘルス支援に携わっています。心身の負担から休職に至る同僚を目の当たりにしたことをきっかけに、相談員の働き方に関心をもち、実情の把握を目的とした研究に取り組みました。調査の結果、業務にやりがいや達成感を感じている人がいる一方、離職リスクを抱えながら働く層の存在が明らかとなり、バーンアウトにつながる可能性が示唆されました。現在は、大学院で学んだ組織マネジメントや人材育成の視点を実務に生かし、相談員同士が支え合える環境づくりに取り組んでいます。支援者が安心して働き続けられることが、結果として地域における支援の質の向上につながると思っています。

学問と仕事を両立する工夫 職場の理解や仲間の支えが重要

交代勤務という制約があるなかで、職場や同僚の理解を得て週末の休みを確保するなどシフトを調整し、学業との両立を図りました。また、オンライン授業を活用するとともに、ともに学ぶ仲間との交流にも支えられ、無事に修了することができました。



現場に根差した マネジメントを学び直す

2年履修

脇 健仁さん
2025年3月 福祉マネジメント研究科 修了
株式会社ゆりかご 代表取締役

研究
テーマ 職種を超えたチームを機能させるためのアプローチ
～定期巡回・随時対応型訪問介護看護の職場から考察する～

事業運営を進める中で、自身の方針が現場でどう機能しているかを理論的に確かめたく、進学を決意しました。研究では介護職と看護職が一体となって動くチーム運営に着目し、各々の専門性を活かして協働する方法を探りました。大学院ではマネジメントの理論を学び、経験則に頼らず根拠を持って判断できるようになりました。また、福祉会計やスーパービジョンなど、経営と現場に直結する知識を得たことで、より質の高いサービス提供をめざす自信も生まれました。今後は、最強のプレイングマネージャーとして、理念である「最期まで住み慣れた場所で過ごせる水戸」の実現に向け、地域密着の経営に取り組めます。

学問と仕事を両立する工夫 研究と実務の相乗効果

勤務調整の協力を得るため、職場に学びの成果を共有するなど工夫しました。通学時間に余裕を持たせ、朝型の生活に切り替えたことで、生活のリズムも整いました。厚生労働大臣・奨励賞を受賞し、職員と表敬訪問した経験は大きなモチベーションに。

実践研究テーマ

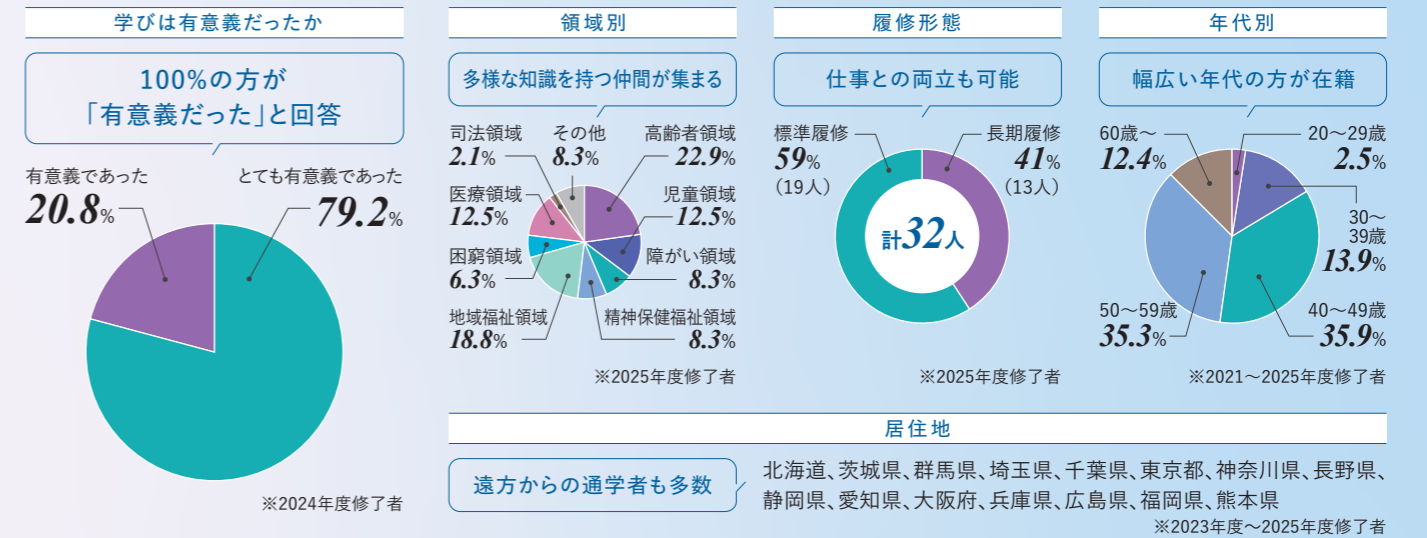
講義で得た理論や解釈を用いて自らの実践を省察し、抽出された新たな課題に意図的に取り組みます。この一連の過程が実践研究です。

精神保健福祉相談員が働きやすい職場づくりとは	社会福祉士専門職後見人のサポート体制のあり方
福祉現場における学びを実践へ展開させるために必要な要素とは	児童相談所と児童養護施設との連携における効果的な実践とは
生活保護実施方針を組織運営に活用する方法について	介護付きホームにおける組織文化と職員定着に関する一考察
医療法人における多職種連携の課題と展望 ～主任相談支援専門員の視点から～	生活者の視点から障害者の「働く」を支える ～アセスメントシートの活用を通して～
身寄りのない高齢者の支援について ～地域包括支援センターでの実践から支援を考える～	アルコール依存症治療病棟におけるソーシャルワーカーの実践省察
知的障害のある人の本人主体の支援を考える ～相談支援専門員の立場から～	小規模多機能型居宅介護の社会資源の役割を通してつなぐ 支援の意義を考察する
障害福祉サービスのサビ児管らが創り出す 「実践共同体」の意義と効果	Z市地域包括支援センターにおける リハビリテーション専門職の機能・役割
終末期の意思決定支援において大切なものは何か	Z市のスクールソーシャルワーカーの成長をめざした新たな取り組み

2025年度

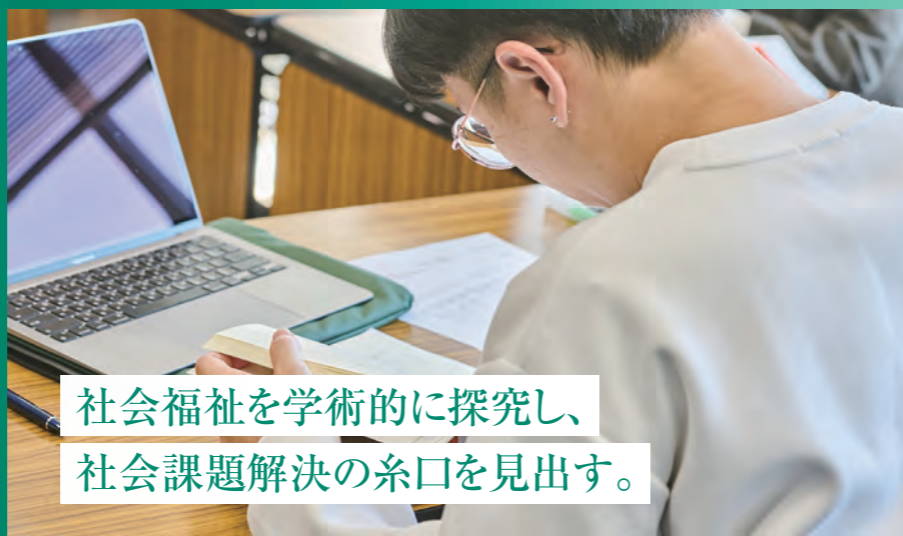
数字で見る福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

福祉の現場経験を糧として学びなおし、実践力とマネジメント力の向上を目指す方が入学しています。



社会福祉学 研究科

研究大学院



社会福祉を学術的に探究し、
社会課題解決の糸口を見出す。



4つの特長

1 実践的な「研究能力向上」に力を注ぐ大学院

今日の社会福祉は、福祉現場での実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、計画と研究を抜きには進められなくなっています。本研究科では、実践研究者としての、あるいは研究的実践家としての「研究能力」を高めることを主眼としています。

2 学びの概要 (博士前期課程・博士後期課程)

博士前期課程(修士課程)は、講義・演習・修士論文指導を体系的に学べる、「領域別研究」と「研究方法論」等の科目で構成しています。博士後期課程(博士課程)は、修士論文指導と論文作成に至るまでの予備審査で構成しています。

3 人材輩出

博士前期課程は「社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践家の養成」、博士後期課程は「社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者および研究的実践家の養成」「社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者を育成できる教育者の養成」を主たる目的とし、新しい社会福祉系大学の教育・研究モデルの構築を目指しています。

4 福祉プログラム 評価履修コースを開設

社会福祉学研究科では、2010年4月より「福祉プログラム評価履修コース」を開設。プログラム評価とは、よりよい社会プログラムを構築し、改善を図り、その存廃や発展の方向性に関する意思決定をするために行われる体系的かつ科学的なアプローチ法のことで、効果的な福祉プログラムの形成・向上に強い影響力をもつプログラム評価者および評価研究者の育成を目指しています。

研究能力向上に力を注ぐ大学院

社会福祉学研究科は、複雑化してきている社会福祉問題、学際化してきている社会福祉研究に対応して、社会福祉学の理論化と社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めることを目的に設置されました。今日の社会福祉は、福祉現場での臨床実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、評価と研究を抜きには進められなくなっています。前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を、後期課程では、社会福祉実践の向上の発展に資することのできる高度の実践的研究者・研究的実践者・教育者を育成します。

アドミッション・ポリシー

求める学生像

本学大学院社会福祉学研究科博士前期課程では、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践者を養成する目的で、以下のような人材を求めます。博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行い高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践者、ならびに優れた実践者・研究者を育成できる教育者を養成する目的で、以下のような人材を求めます。

1. 研究に基づく社会福祉実践向上への強い目的意識を有する者

現代社会の変化に伴って変動する社会福祉のニーズに対して常に鋭敏な関心をよせ、それらのニーズをもつ人への有効な支援のあり方を科学的に解明して、社会福祉理論、政策及び実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感を有する者。

2. 社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行する能力を有する者

現代社会の多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、社会福祉理論、政策及び実践の向上への貢献を行うために、必要な社会福祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行しようとする者。

3. 国際的な視点を有する者

アジアを含めて広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的な視点をもって活躍したいと考える者。

4. 生涯にわたる自己研鑽する者

生涯教育やリカレント教育によって、生涯にわたって自己研鑽に励もうと考える者。

	博士前期課程 (修士課程)	博士後期課程 (博士課程)
修業年限	2年(昼間)	3年(昼間)
入学定員	15名	5名
学 位	修士(社会福祉学)	博士(社会福祉学)

「アドミッション・ポリシー」の詳細は本学Webサイトを
ご確認ください。



» 研究科長メッセージ



多彩な知見を持つ
教員と仲間が社会に
貢献する研究を深める。

本研究科は、社会福祉およびソーシャルワークの理念を基盤に、理論・実践・法制度を総合的に探究し、実践や制度設計、学術研究の発展に貢献できる高度専門職および研究者の育成を目的としています。博士前期・後期課程からなる体系的な教育課程を通じて、理論と実践、法制度を架橋する研究力を養成します。

博士前期課程では、人びとの生活課題や社会的困難を抱える人びとを取り巻く社会問題を対象に、その生活課題や社会問題が生じている様相や実態の解明、援助実践の方法や実践プログラムの構築や法施策・制度のあり方を科学的に探究する能力を培います。個別支援から地域、制度・政策レベルに至るまで、実践を理論的・制度的に捉え直す視点を身につけます。博士後期課程では、自立的な研究遂行能力を基盤に、社会福祉およびソーシャルワーク理論の深化と実践の質向上、法制度への提言に資する研究力を高めます。

多様な専門分野の教員と院生が相互に学び合い、研究成果を実践や制度へと還元する道とともに探究していきましょう。

社会福祉学研究科 研究科長
木村 容子 教授

Pick Up

福祉の古典を 数多く所蔵する図書館

本学図書館は、中央社会事業協会(現在の全国社会福祉協議会)が1934(昭和9)年に設置した「社会事業研究所図書室」の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・研究・学習に資する国内外の図書資料の整備拡充に努めています。そのため、戦前の貴重な図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵しています。現在蔵書数は26万点に達しています。



博士前期課程(修士課程)

一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

社会福祉学の理論化と、社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めます。

Point 1 **社会福祉の広範な知識と研究方法を体系的に学修**

社会福祉の歴史や理論をベースとして、専門領域の知識を深めつつ、研究方法を学び、自らの研究に適用させます。

Point 2 **研究テーマに応じた指導教員のきめ細かな指導**

それぞれ指導教員が配置され、多様化・細分化する研究テーマの深い指導を可能にしています。研究計画発表会・修士論文中間報告会・修士論文発表・審査会などでの発表が義務づけられ、研究成果の発表方法の指導も行われます。

Point 3 **大学院専用の実習室など充実した教育環境**

研究室やコンピュータを設置した大学院専用の情報計画実習室など環境設備が充実。日本社会事業大学社会福祉学会での発表など新しい社会福祉研究教育を志向しています。

Point 4 **現場で活躍する福祉関連従事者も在籍**

社会福祉現場で働いている人が現職のまま博士前期課程に在籍し、社会福祉現場の課題と社会福祉研究・教育とを結びつけた研究を進めるリカレント教育及び福祉関係職経験者教育システムを実現しています。

博士前期課程2年間の流れ

1年次		2年次	
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学式 オリエンテーション 指導教員決定 履修・コース登録 <p>履修方法や学生生活の説明を理解し、指導教員を決定し、履修登録する。「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。</p> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文中間報告会 <p>2年次生の報告や質疑を聞くことを通して発表方法や研究方法などを学ぶ。</p>	<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内学会 (日本社会事業大学社会福祉学会) <p>大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。</p> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究計画発表会 <p>研究計画の発表・質疑を通じて、2年次の修士論文中間報告会までに必要となる事項を確認する。</p> <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文発表・審査会 <p>2年次生の発表や質疑応答を聞くことを通して発表方法や発表方法などを学ぶ。</p>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 履修登録 修士論文題目届提出 <p>修了要件を確認のうえ履修登録し、修士論文の題目を届け出る。</p> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文中間報告会 <p>修士論文提出予定者は修士論文の中間報告を行い、コメント担当を含む教員による質疑応答にて論文作成の方向性を確認する。</p>	<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内学会 (日本社会事業大学社会福祉学会) <p>大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生も参加し、学会の運営に協力する。</p> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文題目変更届の締切 <p>4月に登録した修士論文の題目を変更する場合は変更届を提出する。</p>
<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位申請・修士論文提出 <p>修士論文作成ガイドラインを参照しつつ修士論文を提出し、学位申請を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文発表・審査会 <p>修士論文提出者は指定された方法にて発表・質疑応答を行う。</p>			

学位授与
修士(社会福祉学)取得

カリキュラムの構造 (2026年度参考)

社会福祉基盤科目	領域別科目	研究方法論科目
社会福祉の歴史や理論を深める	専門領域の知識を深める	福祉実践を変える力を身につける
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学理論研究・学説史 (教授 内田宏明) ソーシャルワーク理論研究Ⅰ (教授 小原真知子、木村容子) 社会福祉歴史研究方法論Ⅰ (非常勤講師 松山毅) 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉政策研究Ⅰ (教授 佐々木貴雄) 地域福祉研究Ⅰ・Ⅳ (教授 田村真広、菱沼幹男、准教授 倉持香苗) 子ども家庭福祉研究Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ (教授 内田宏明、准教授 宇野耕司、亀崎美沙子) 障害福祉研究Ⅱ・Ⅲ (准教授 大部令絵、冨永健太郎) 高齢者保健福祉研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (教授 梶原洋生、鶴岡浩樹、森千佐子、准教授 永嶋昌樹、講師 小野内智子) アジア社会福祉研究Ⅰ (准教授 ヴィラーグヴィクトル) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学研究方法論概論 (研究科長他) 研究課題設定論Ⅰ・Ⅱ (教授 田村真広、賛川信幸、菱沼幹男、准教授 ヴィラーグヴィクトル) 社会福祉調査研究法基礎論 (准教授 大崎裕子、新藤健太) 実践研究のための量的データ分析方法論 (教授 大崎裕子、新藤健太、非常勤講師 朴堯星) 実践研究のための質的研究方法論 (准教授 新藤健太) 福祉プログラム評価論総論 (教授 賛川信幸) 福祉プログラム評価論各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (准教授 新藤健太、非常勤講師 大森正博、大山早紀子) 福祉プログラム評価特別講義Ⅰ (教授 賛川信幸)

専門英語科目	研究演習	実習
国際的視野を持ち、海外文献を読みこなすための専門英語を学ぶ	演習による事例検討や研究方法、個別指導により考察を深め、論文としてまとめる	理論のみならずフィールドを理解し実証を行う
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学専門英語Ⅰ・Ⅱ (講師 デバコタジバナト) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学研究演習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ* 研究発表論演習* 論文指導* 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学研究実習Ⅰa・Ⅰb* 福祉プログラム評価実習Ⅰa・Ⅰb (教授 賛川信幸)
<p>※2026年度 演習・実習・論文指導 担当教員</p> <p>教 授：有村大士、内田宏明、小原真知子、梶原洋生、木村容子、佐々木貴雄、田村真広、鶴岡浩樹、賛川信幸、菱沼幹男、森千佐子 准 教 授：ヴィラーグヴィクトル、宇野耕司、大崎裕子、亀崎美沙子、新藤健太、永嶋昌樹</p>		

開講科目系列 時間配置

大学院の授業を木・金・土曜日に集中。仕事と大学院での研究活動を両立しやすい時間割構成としています。

※一部の科目は、他の曜日に開講する場合があります。

	月	火	水	木	金	土
1時限 (9:00~10:30)						
2時限 (10:40~12:10)						
3時限 (13:00~14:30)						
4時限 (14:40~16:10)						
5時限 (16:20~17:50)						
6時限 (18:00~19:30)						

講 義
研究演習
論文指導

一部の科目が認定社会福祉士制度 研修認証科目に認証(社会福祉士有資格者対象)

認定社会福祉士認証・認定機構が認定している「認定社会福祉士」の認定制度の研修として、本大学院の7科目(12単位)が2021年度より認証されています。2020年9月から認定社会福祉士の取得ルートに、新たに「大学院(教育基幹)ルート」が新設され、在籍している大学院で対象の認証科目を12単位取得した場合に適用されます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご確認ください。

<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/index.html>



博士後期課程(博士課程)

新しい社会福祉研究と教育を担う「研究者の養成」を主な目的としています。

Point 1 複数教員による研究サポート

大学院生は論文指導教員の中から主指導教員、その他の教員の中から1名を副指導教員とし、それぞれの担当教員から研究指導を受けます。福祉政策、地域福祉、ソーシャルワーク実践、福祉プログラム評価、保健医療福祉、子ども家庭福祉、障害福祉、高齢者福祉を担当する教員が研究指導科目を開講しています。

Point 2 3段階の予備審査、綿密な指導の下で、博士論文を執筆

博士論文の審査については、第1次予備審査から第3次予備審査までのプロセスを経て、最終審査、最終試験を受けます。予備審査では、1年次から3年次までの各段階における研究計画書の申請書類を提出し、その計画書等に基づき、口述試験が行われ、第2次予備審査に合格した者は博士論文執筆に取りかかります。

Point 3 評価研究者としての研修を積む「福祉プログラム評価履修コース」

博士前期課程の福祉プログラム評価履修コースに加えて、博士後期課程では福祉プログラム評価の知識を養うと共に指導教員の共同研究や外部資金を活用したプロジェクト研究に関わり、プロジェクトマネジャーの経験を通して自立した評価研究者としての研鑽を積みまます(福祉プログラム評価履修コースの詳細はp.22をご参照ください)。

Point 4 国内外を舞台に、共同研究員として研究プロジェクトに参加

本学社会事業研究所が行う研究プロジェクトに共同研究員やリサーチ・アシスタントとしての登録を経て、海外の社会福祉研究及び国内の各種社会福祉調査、社会福祉研究プロジェクトに参加し、研究を深めると共に、社会福祉に関する先駆的・実践的研究活動を実現します。また、日本学術振興会「特別研究員」他の獲得に向けた経費の補助を行う等、研究者が広い視野をもって福祉の研究・実施に取り組める環境が整っています。

Point 5 それぞれの研究成果を論文にまとめ、関係学会で発表

大学院生は研究指導の成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿する他、その内容を社会福祉学会など関係学会で報告、発表します。

研究指導科目 [研究指導科目及び担当者一覧] (2026年度参考)

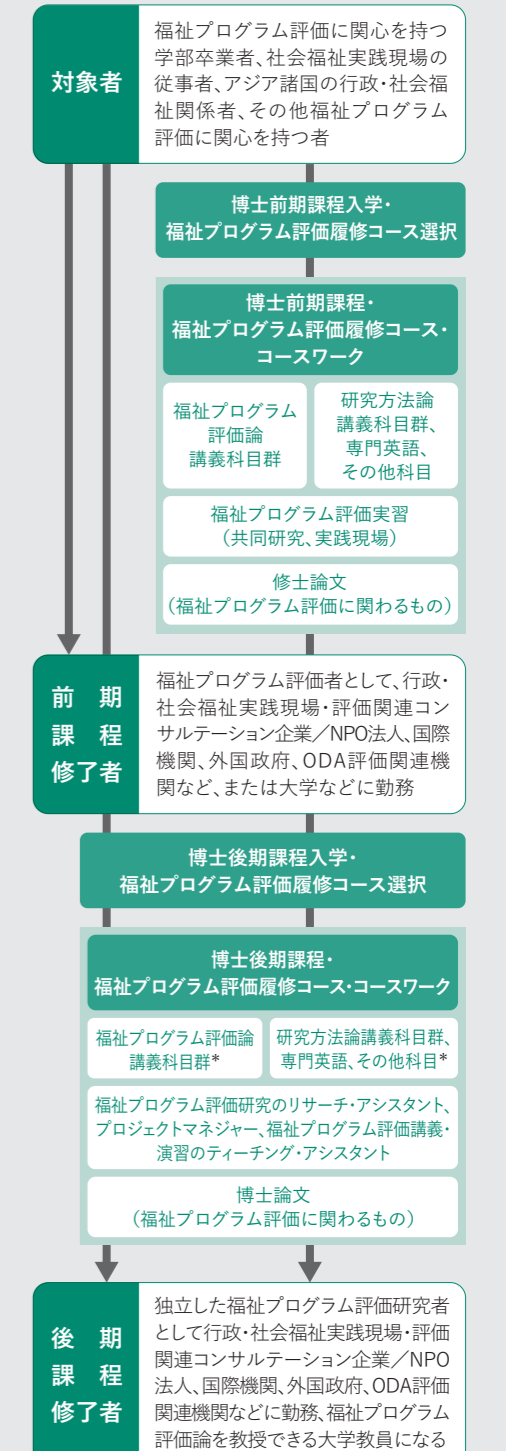


研究指導科目の名称	必修単位	自由選択単位	科目担当者
社会福祉学専門研究演習Ia(1年次)	2		教授 有村 大士 教授 小原 真知子 教授 木村 容子 教授 佐々木 貴雄 教授 田村 真広 教授 鶴岡 浩樹 教授 賛川 信幸 教授 菱沼 幹男 教授 森 千佐子
社会福祉学専門研究演習Ib(2年次)	2		
社会福祉学専門研究演習Ic(3年次)	2		
社会福祉学専門研究演習II		2	
社会福祉学専門研究演習III		2	
社会福祉学専門研究演習IV		2	
社会福祉学専門研究演習V		2	
社会福祉学専門研究演習VI		2	
福祉プログラム評価実習II		1	教授 賛川 信幸
博士論文指導I(1年次)	2		社会福祉学専門研究演習の科目担当者と同じ
博士論文指導II(2年次)	2		(同上)
単位数	10		

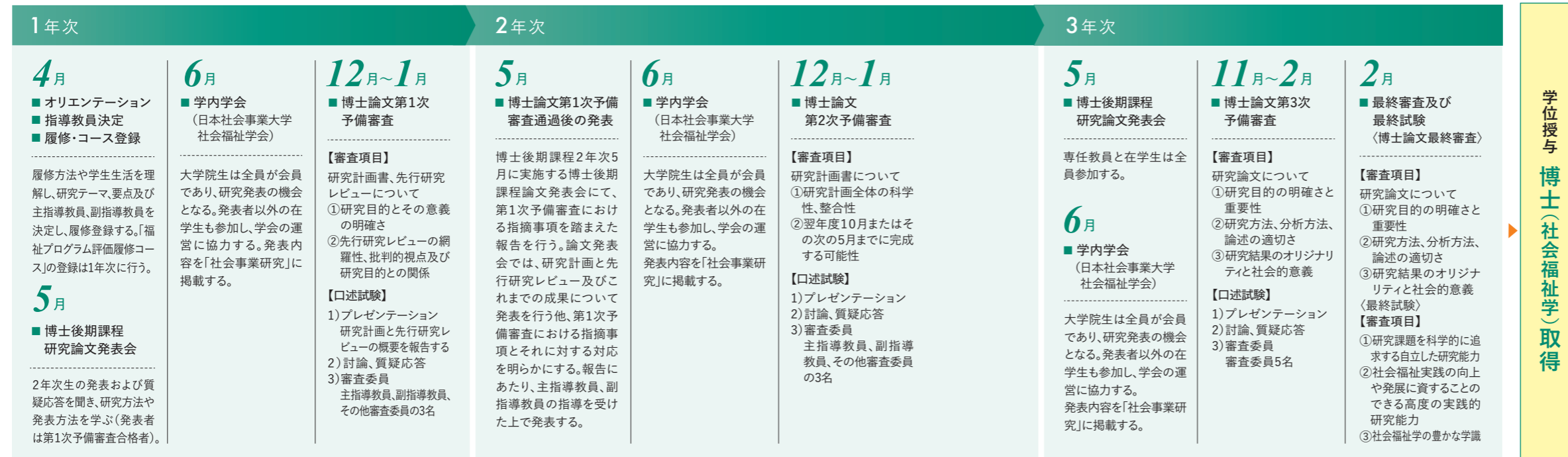
福祉プログラム評価履修コース

本履修コースでは、社会福祉実践現場はもちろんのこと、行政、国際機関など、様々な領域において、新しい切り口による福祉プログラム評価のアプローチ法を修得することができます。

履修コースの履修プロセスとコース修了後に期待されるキャリアパス



博士後期課程3年間の流れ



Professor 教員 × 院 生 Graduate student

教員と院生が、研究の意義や学びの魅力について語ります。

学生と教員が学び合う場で、
実体験から現場の「孤立」を解き明かす研究に取り組む

保坂 現在、児童養護施設などの社会的養護の現場で、職員が孤立せずに子どもと向き合える「対話の構造」について研究しています。小規模化や家庭的養育への移行が進む一方で、現場は閉じられた環境になりやすく、職員が一人で悩みを抱え込んでしまう状況があります。こうした状況を実践において経験するなかで、支援の困難さが個人の能力や経験の問題に還元されがちな現状に違和感を抱くようになりました。そうした問題意識を踏まえ、職員が安心して語り合い、日々の業務を振り返ることができる場の構造を探求しています。

有村 まさに実践に根ざした研究ですね。私自身、保坂さんの研究から学ぶべきことが多くあります。先日も研修と一緒に考え、プログラムを組み立てましたね。ゼミ生とはともに学ぶ間柄でありたいと思っています。

そのうえで、教員が与えた課題をこなすのではなく、自分自身が解決したい「問い」を見出し、追究する姿勢を大切にしてほしいですね。

保坂 有村ゼミは非常にオープンで、先生はもちろん多分野の先輩方からも、自分では気づけない視点でアドバイスをいただいています。そうした日々の学びを糧にしながら、現場と研究機関をつなぐ研究者を目指していきたいと思っています。

有村 福祉の研究は人と向き合う営みですから、研究や実践も含めて、築いた人脈が大きな財産になります。10年後、20年後にどのような人間に成長し、社会にどう貢献したいのか。「悩むことができる自由」を楽しみながら、広い視野で自分のあり方を模索してほしいです。保坂さんのこれからの期待しています。



社会福祉学研究科 (研究大学院) 有村 大士 教授
社会福祉学研究科 (研究大学院) 保坂 沙弥 さん

心強い後押しを受け、安心して研究に挑める環境から、
対話型福祉教育を地域へ広げる

金親 「地域における対話型福祉教育としてのヒューマンライブラリー」をテーマに研究しています。具体的には、人を本に見立てて対話し、相手への理解を深める「ヒューマンライブラリー」の実践をベースに、地域の対話型福祉教育の可能性を探っています。最初は教育機関での展開を想定していたのですが、研究を進めるうちに地域を巻き込んでこのような取り組みを行う必要があると考えるようになりました。現在は、勤務先である社会福祉協議会で実際にヒューマンライブラリーの企画・運営にも携わっています。

菱沼 私の専門は地域福祉ですが、ゼミには教育や司法と関連づけた研究を行う学生もいます。各自の問題意識を尊重しながら、まずは先行研究のレビューに徹底して取り組んでもらうことを大切にしています。これまでの知見を丁寧に紐解くことで、研究の

社会的意義を明らかにする力を養ってほしいからです。

金親 研究を始めた当初は「対話型福祉教育」は先行研究も少ないため、悩む場面が多かったです。そんなとき、先生がこのテーマの重要性に共感し、背中を押してくださったおかげで前に進むことができています。

菱沼 学部時代から、よく研究室に足を運んでくれていますよね。私は学生が研究に行き詰まっているときには、じっくり話を聴くようにしています。金親さんの、今後の展望は？

金親 博士後期課程への進学も視野に、職場である社協でのヒューマンライブラリーの取り組みを広げます。理論と実践の両輪で地域福祉に貢献したいです。

菱沼 応援しています。困難を抱えている人たちのために、ともに学び続けましょう。



社会福祉学研究科 (研究大学院) 金親 萌 さん
社会福祉学研究科 (研究大学院) 菱沼 幹男 教授

教員紹介

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

木村 容子 研究科長 教授

前後



【略歴】関西学院大学大学院社会学研究科博士前期課程修了(社会学修士)。(米国)コネチカット大学ソーシャルワーク大学院修士課程修了(Master of Social Work)。関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程修了(博士・人間福祉)。社会福祉法人愛和会・中筋児童館館長、京都光華女子大学准教授等を経て、現職。**【主な研究分野】**子ども・子育て支援、社会的養護、ソーシャルワーク実践モデル**【著書】**『こども家庭福祉』(共編著、法律文化社、2025)／『ソーシャルワーク論』(共編著、法律文化社、2023)／『虐待児の専門里親支援—M-D&Dにもとづく実践モデル開発—』(相川書房、2012)など

- ▶前期課程の方へ 自身の研究においてソーシャルワークのどのような価値と理論をもって事象を説明立てるのか、あるいは実践のあり方等を実証していくのか、社会に対するアカウンタビリティを果たしうる研究の基礎力を養いましょう。
- ▶後期課程の方へ ソーシャルワークの価値や実践理論等理論的枠組みをもって、客観的にエビデンスを導く実証的なソーシャルワーク研究を志向していきましょう。そのためのクリティカルな思考や研究方法を習得する個別指導やピアの良さを活かした授業・ゼミを行います。

内田 宏明 教授

前



【略歴】東洋大学大学院博士後期課程単位取得退学。養護老人ホーム相談員、障害者就労支援員、スクールソーシャルワーカー、長野大学実習助手、法政大学実習指導講師、飯田女子短期大学准教授を経て現職。**【主な研究分野】**社会福祉学原理論研究、教育福祉論研究、スクールソーシャルワーク実践理論研究**【著書】**『再構児童福祉—子どもたち自身のために』(共著、筒井書房、2014)／『まちいっばいの子どもの居場所』(共編著、子どもの風出版会、2019)／『入門スクールソーシャルワーク論』(編著書、ミネルヴァ書房、2022)など

- ▶前期課程の方へ 「子どもの権利」擁護を焦点として、スクールソーシャルワークの地域展開、学校福祉論の研究を進めている。また、社会福祉の原理論についても学びを深めたいと考えている。

梶原 洋生 教授

前



【略歴】新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科准教授を経て現職。**【主な研究分野】**福祉法学、司法福祉**【著書】**『福祉と医療の法律学』(インデックス出版、2001)／『ホームヘルパーの医療行為』(共著、一橋出版、2002)／『介護福祉のための法学』(編著、弘文堂、2008)

- ▶前期課程の方へ 高齢者保健福祉の関連法について学び、解釈の論理について理解を深める。自己の課題とする法現象を体系的に考究する。係る法は多岐にわたるが、法の趣旨並びに法理を探り、その齟齬や制度リスクを研究する。

有村 大士 教授

前後



【略歴】日本社会事業大学 博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。日本子ども家庭総合研究所子ども家庭福祉研究部主任研究員を経て、2013年に着任。**【主な研究分野】**子ども家庭福祉、児童相談所、子ども虐待に対する社会的対応、社会的養護、障害児虐待予防など**【著書】**『ファミリー・グループ・カンファレンス；子ども家庭ソーシャルワーク実践の新たなモデル』(共訳、有斐閣、2005)／『子ども虐待(新版)』(共著、有斐閣、2008)／『一時保護所の子どもと支援』(共著、明石書店、2009)／『障害児の虐待死問題：事例の分析と障害児支援・家族支援』(共著、福村出版、2024)／『子ども家庭福祉』(共編著、ミネルヴァ書房、2016)／『第4巻 障害福祉(学習双書2026)』(共著、「社会福祉学習双書」編集委員会 編、2026)など

- ▶前期課程の方へ ゼミにおける受講生、及び教員との対話を通して、考えを深める作業を大事にしたいと思います。研究テーマに向き合い、考える作業を進める中で、自分自身の「考える」意味や意義も変わってくると思います。こだわりと柔軟さは一見矛盾するようですが、共に大切なものです。
- ▶後期課程の方へ 自立した研究者として、考える時間と過程を大切にしてください。文献を整理し、論文の焦点を絞る過程では、自分自身のもつ価値観や研究の興味に迷うことも多いことかと思います。自分自身が対象の本質を捉えているのかを問い、研究の社会的意義を見失わずに研究を深めていただきたいと思います。

小原 眞知子 教授

前後



【略歴】1991年、日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学博士前期課程修了(社会学修士)後、日本医科大学第二病院、医療ソーシャルワーカーを経て、2000年、久留米大学文学部社会福祉学専攻講師、准教授。2005年、日本女子大学大学院人間社会学研究科博士後期課程修了(社会福祉学博士)。2007年、東海大学健康科学部、准教授、教授を経て、2015年より現職。**【主な研究分野】**ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域、国際ソーシャルワーク領域**【著書】**『統合的短期型ソーシャルワーク—ISTTの理論と実践』(監訳、金剛出版、2014)など

- ▶前期課程の方へ 社会福祉実践は理論の両輪で検討する必要があります。前期課程を通して、社会の動向を見据えた重要な研究テーマに取り組み、その成果を社会に還元してほしいと願っています。
- ▶後期課程の方へ 後期課程では、社会福祉を実学として客観的にエビデンスを提示し、研究テーマに沿って検証していくプロセスが必要です。各自のテーマを博士論文にする道りは容易なことではありませんが、貴方の研究が社会に貢献できることを期待しています。

佐々木 貴雄 教授

前後



【略歴】2006年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。東京福祉大学専任講師、准教授を経て2023年に本学着任。**【主な研究分野】**医療保険制度における保険者、高齢者を対象とした医療保障、社会の変化に対応した社会保障制度**【著書】**『就労支援政策にみる福祉国家の変容：7カ国の分析による国際的動向の把握』(分担執筆、ミネルヴァ書房、2024)／『「厚生(労働)白書」を読む：社会問題の変遷をどう捉えたか』(分担執筆、ミネルヴァ書房、2018)／『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか：主要9カ国の比較研究』(分担執筆、ミネルヴァ書房、2014)

- ▶前期課程の方へ 前期課程では、まず研究論文の書き方をしっかりと理解することが求められます。先人の研究との対話の中で自ら考え、さらに考えを突き詰めたうえで論文にまとめていく楽しさをぜひ知ってほしいと思います。
- ▶後期課程の方へ 後期課程では、博士論文の執筆だけでなく、投稿論文や学会などで自らの研究を発表することが求められます。本大学院での研究をもとにして、ぜひ積極的に様々な学会や研究会に参加することを心掛けてください。

教員紹介

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

田村 真広 教授

前後



【略歴】筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、教育学修士。筑波大学教育学系、北海道教育大学釧路校を経て、2001年本学に着任、現在に至る。【主な研究分野】教育福祉論、福祉教育実践論、福祉科学学習指導論、学校カリキュラムの歴史と理論【著書】『福祉科指導法入門』（共編著、中央法規出版、2002）／『あっ!こんな教育もあるんだ』（共編著、評論、2006）／『高校福祉科卒業生のライフコース』（共編著、ミネルヴァ書房、2008）／『希望をつむぐ教育』（共編著、生活ジャーナル、2018）／『究める!福祉教育・ボランティア学習の課題』（共編著、大学図書出版、2024）など

- ▶前期課程の方へ 子どもの貧困と地域振興、高等学校の教育課程改革、教師教育に研究関心があります。教育福祉と福祉教育の関連を探究するべく、多角的な視野から現実を切り取り、学際的に探究する手法を重視しています。
- ▶後期課程の方へ 教育福祉と福祉教育の関連を、歴史的かつ哲学的、学際的に探究します。最新の知見を取り入れつつ独立した研究の成果としてまとめていきます。

鶴岡 浩樹 教授

前後



【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町民病院内科、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポート医。日本医師会認定産業医。【主な研究分野】地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携【著書】『介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント』（共著、中央法規、2019）／『医学概論』（共編、ミネルヴァ書房、2021）／『スゴくわかる!すぐ役立つ!ケアマネ・介護職のための医学知識ガイド』（単著、中央法規、2023）

- ▶前期課程の方へ 地域医療に関わる研究は現場に焦点を当てます。疾病の他、患者と家族、それを支える地域や社会など研究対象は広範囲です。量的研究、質的研究、ミックス法など多角的なアプローチを駆使し現場の不思議に迫ります。
- ▶後期課程の方へ 前期課程で身につけた知識、技術、価値観を高められるよう医学研究の立場から助言します。研究課題を多角的な視点で見つめ、エビデンスに基づく論理的思考を磨き、現場のための研究者を育みたいと思います。

宇野 耕司 准教授

前



【略歴】児童養護施設等での実務を経験した後、2013年、本学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。目白大学准教授を経て、現職。【主な研究分野】子ども虐待、子ども家庭福祉領域における援助・支援、子育て支援・支援者支援を含む社会的養育領域における実践と研究【著書】『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』（中央法規出版共著）『ワークブック はじめての子育てと子育て支援』（学術研究出版）

- ▶前期課程の方へ 子ども家庭福祉領域の実践課題の解決に関心があります。実践を観察・記述し、研究テーマを明確にします。そして、研究テーマに関する先行研究をレビューし、実践課題を研究課題として説明し、問いを立て、その答えを見つけるために実証的な方法を用いて研究に挑みます。

大崎 裕子 准教授

前



【略歴】2016年に東京工業大学社会理工学研究科社会学専攻にて博士(学術)を取得。東京大学社会科学研究所特任助教、立教大学社会学部特任准教授を経て、2025年より現職。【主な研究分野】計量社会学、信頼と社会関係資本、社会意識【著書】『ソーシャル・キャピタルと格差社会:幸福の計量社会学』（分担執筆、東京大学出版会、2014）／『子どもの学びと成長を追う:2万組の親子パネル調査の結果から』（分担執筆、勁草書房、2020）

- ▶前期課程の方へ 社会や制度の現状、他者との関係や自身の状態に関する人々の認識や考え方、それらにより引き起こされる対立や分断など、目には見えないけれど人間社会のなかに確かに存在している現象を、概念として定義し、調査によって測り、得られたデータから関連性や因果関係を明らかにすることの面白さを伝えていければと考えています。

贅川 信幸 教授

前後



【略歴】2008年、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(保健学)。NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)研究員、本学非常勤講師を経て、現職。【主な研究分野】精神保健福祉、福祉プログラム開発・改善と評価【著書】『心理社会的介入プログラム実施・普及ガイドラインに基づく心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット』（分担著、NPO法人コンボ、2011）／『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法(共編著、日本評論社、2019)など

- ▶前期課程の方へ 福祉課題の解決のために「なぜそうなのか」を根拠をもって他者と共有できる形で生み出し、発信する“研究力”の習得を目指します。私の専門は精神保健福祉分野ですが、福祉分野横断的に福祉課題を扱います。
- ▶後期課程の方へ 博士前期課程の内容をさらに掘り下げます。海外の文献レビューも積極的に取り入れ、国際的な知見も踏まえて研究を進め、国際的にも発信できる研究者を目指して指導します。

菱沼 幹男 教授

前後



【略歴】1994年、本学社会福祉学部卒業。2001年、本学大学院博士前期課程修了。2010年、本学大学院博士後期課程修了(社会福祉学博士)。社会福祉協議会職員、高齢者デイサービスセンター生活相談員、大妻女子大学実習講師、文京学院大学助教等を経て現職。社会福祉士・介護支援専門員。【主な研究分野】地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク【著書】『コミュニティソーシャルワーク』（単著、有斐閣、2024）、『コミュニティソーシャルワークの新たな展開』（共編著、中央法規、2019）、『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共編著、中央法規、2015）など

- ▶前期課程の方へ コミュニティソーシャルワークは、個別支援と地域支援の統合的展開を目指すものであり、この視点を基盤として各自の研究テーマを掘り下げ、実践に資する研究力を養います。
- ▶後期課程の方へ 地域生活支援における今日の課題に対して、学際的な先行研究のレビューと実証的な調査を通して、日本の地域福祉実践と理論を前進させていく研究力と教育力を高めます。

亀崎 美沙子 准教授

前



【略歴】神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程人間発達専攻修了(教育学博士)。江東区東陽子ども家庭支援センター“みずべ”非常勤職員、東京家政大学家政学部児童学科助教、松山東雲短期大学保育科専任講師、十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科准教授を経て、2024年より本学社会福祉学部および大学院社会福祉学研究科准教授。【主な研究分野】保育の専門性を基盤とした子育て支援、子育て支援における保育者の葛藤、保育者の専門職倫理【著書】『子育て支援における保育者の葛藤と専門職倫理-「子どもの最善の利益」を保障するしくみの構築にむけて-』（単著、2023、明石書店）、『保育の専門性を生かした子育て支援-「子どもの最善の利益」をめざして-』（単著、2018、わかば社）など

- ▶前期課程の方へ 保育者が行う乳幼児期の子ども・子育て支援や保育者の専門職倫理に焦点を当て、乳幼児教育・保育との関連から学びを深めます。

新藤 健太 准教授

前



【略歴】日本社会事業大学大学院、社会福祉学研究科、博士後期課程修了。茨城キリスト教大学、生活科学部 心理福祉学科 兼任講師、群馬医療福祉大学 社会福祉学部 講師を経て、2022年に本学に着任、現在に至る。【主な研究分野】障害者福祉、ソーシャルワークとプログラム開発・評価、社会的インパクト評価、他【著書】『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法:CD-TEP法:協働によるEBP効果モデルの構築』（共著、日本評論社、2019年）、『社会的インパクト評価ツールセット(ホームレス支援)』（編著者、GSG 国内諮問委員会社会的インパクト評価ワーキング・グループ、2019年）、『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック:実践と研究を結びつけるプロセスと方法』日本ソーシャルワーク学会監修(共著、範囲:第10章⑤「プログラム評価研究」、中央法規出版、2019年)

- ▶前期課程の方へ 前期課程では、社会福祉実践を研究として捉え、社会問題の背景や支援の仕組みを整理しながら、実践を分析し改善につなげる視点を学びます。ゼミではプログラム評価やエビデンスに基づく実践(EBP)を手がかりに、ラディカル・ソーシャルワーク(RSW)の視点も踏まえ、個人の困難を社会との関係から考える研究を大切にしています。

森 千佐子 教授

前後



【略歴】九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学後、博士(社会福祉学)を取得。筑波大学附属病院等で看護師として勤務した後、看護教員を経て、佐野短期大学(現佐野日本大学短期大学)で介護福祉士養成教育に携わり、2017年より現職。【主な研究分野】高齢者・介護者支援、介護実践、多職種連携、介護福祉教育【著書】『人間関係ハンドブック』（共著、福村出版、2017）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）／『新・社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習』（共著、弘文堂、2024）など

- ▶前期課程の方へ 疑問や関心のある事柄を深く掘り下げ、解明するための理論や方法など研究の基礎を修得し、事象を論理的に多角的視点でとらえることが重要です。社会福祉・介護福祉の実践につながる研究成果を期待しています。
- ▶後期課程の方へ 高齢者をめぐる課題を中心に、これまでの研究成果を発展させながら、社会福祉・介護福祉に関する創造的・独創的な研究への取り組みを支援します。研究成果が社会貢献につながることを期待しています。

ヴィラーグ ヴィクトル 准教授

前



【略歴】東京大学卒業後、本学大学院修了(社会福祉学博士)。日本学術振興会特別研究員、長崎国際大学講師などを経て現職。国内の各種福祉系学会と専門職団体の役員等の他に、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)理事や国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域(IFSW-AP)会長補佐及び財務担当を経験。【主な研究分野】多様性とソーシャルワーク、国際社会福祉、グローバルソーシャルワーク教育【著書】『多様性時代のソーシャルワーク』（単著、中央法規、2018）／『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』（単著、中央法規、2021）／『国際ソーシャルワークを知る』（分担執筆、中央法規、2022）／『Remaking Social Work for the New Global Era』（分担執筆、Springer、2022）／『Social Work Professional Organizations』（分担執筆、Policy Press、2025）／『Professional Social Work Education in the Asia Pacific Region』（共編著、IFSW、2025）など

- ▶前期課程の方へ 常にグローバルな視点と多様性の視点を念頭に、社会福祉的な課題及びソーシャルワーク実践について、国際的にも通用する学術研究に求められる、「当たり前」や「常識」に挑戦し続けるクリティカルな思考と、科学的なエビデンスに基づく論理性を持ち合わせながら、一緒に探求していきましょう。

永嶋 昌樹 准教授

前



【略歴】筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻カウンセリングコース修了、日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了。聖徳大学専任講師を経て、2016年本学に着任、現在に至る。【主な研究分野】高齢者福祉、世代間交流、農福連携、グリーンソーシャルワーク【著書】『要介護認定調査必携ハンドブック』（編集、看護の科学新社、2023）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）／『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』（共著、みらい、2016）など

- ▶前期課程の方へ 人間の生活を「高齢者」「子ども」「障害者」等の年齢・属性や、法律ごとの区割りで見るのではなく、社会や環境との関係を踏まえて全人的・包括的に捉えることができるような指導を心掛けています。

修了生の声

進学を決めた理由やどのような生活を過ごし、
どのような学びを得たか、修了生に答えていただきました。

※掲載されている内容は取材当時(2026年3月)のものです。



家庭環境に悩む子どもたちが安心して過ごせる場を生み出す

福嶋 優人さん
2020年3月 社会福祉学研究科 博士前期課程 修了
八王子市役所 生活福祉課 勤務

研究テーマ 地域の子どもの居場所における子どものニーズ把握

大学時代の学習支援ボランティアで家庭環境に課題を抱える子どもたちと出会い、彼らの居場所づくりに向けた専門知識の習得と研究活動を行うために進学しました。在学中は、地域における子どもの居場所での関係形成プロセスを、「参与観察」を通して探究。研究で養った論理的思考や分析力、修士論文執筆で培った文章作成力は子ども家庭支援センターでの虐待対応や中高生世代の居場所の新規立ち上げ、生活保護のケースワーカー業務に役立っています。今後は、博士後期課程進学も視野に入れ、実践と研究の両輪で経験を積みながら、次代を担うソーシャルワーカーの育成にも貢献したいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫 研究とのバランスがよい勤務形態を

1年次の途中から、臨時職員としてスクールソーシャルワーカーの職に就きましたが、フルタイム勤務ではなかったため、研究活動とも無理なく両立できたと感じます。仕事と並行し、多様な若者の居場所を訪れるなど、地道な調査活動に注力しました。



地域福祉の現場課題に即したCSWの実践と支援体制を探る

渡久地 美智留さん
2025年3月 社会福祉学研究科 博士前期課程 修了
高崎健康福祉大学 健康福祉学部 社会福祉学科 勤務

研究テーマ 特例貸付を通じたCSWの支援体制と今後のあり方の検討

社会福祉協議会に勤めていた頃、「現場と乖離していないか」「もっと的確に支援できるのでは」と悩み、実践と理論の双方を深めたいと大学院に進学しました。研究では、コロナ禍での特例貸付を切り口に、生活困窮世帯への支援のあり方をコミュニティソーシャルワーク理論から検討。全国の社会福祉協議会への量的調査と個別の社協への質的調査を行いました。支援に必要な機能や体制を明らかにし、社会的孤立に対するアウトリーチの重要性や個別支援と地域支援をつなぐ仕組みづくりの必要性を示せたと思います。研究を通じ、目的意識とエビデンスのある実践の重要性を再認識しました。

学問と仕事を両立する工夫 実践と研究の両立への思い

間接支援の立場で働くなか、「もっと現場を理解したい」という思いが募り、実践を通じて研究を深めたいと考えようになりました。大学院パンフレットにあった「実践的研究者・研究的実践家」という言葉が、進学への大きな後押しに。



エビデンスを大切にした実践から高齢者福祉の未来をひらく

植田 大雅さん
2024年9月 社会福祉学研究科 博士後期課程 修了
社会福祉法人白秋会 特別養護老人ホーム泰山 機能訓練指導員

研究テーマ 特別養護老人ホームにおける重度化する利用者の生活機能の活用と多職種連携

特別養護老人ホームで機能訓練指導員として働くなかで、根拠に基づく実践の重要性を強く感じ、進学を決意しました。特に関心があったのは、多様な専門職が効果的に連携し、利用者の生活機能を高めるための仕組みづくりです。学びを通して、専門知識や、データを読み解き論理的に議論する力が身につきました。これらの素養を生かして、ケアの質を評価し、他職種やご家族に対しエビデンスを明確に示した説明を行うなど、業務の質向上につとめています。研究成果を軸とした新たな機能訓練モデルの確立や、根拠に基づく実践を担える指導員の育成など、高齢者福祉全体の発展に力を尽くします。

学問と仕事を両立する工夫 徹底した時間管理と周囲への配慮を

両立のコツは、早朝や夜間、週末を研究活動にあてる計画的な時間管理にあります。また、現場でのデータ収集には職場の理解と協力が不可欠なため、細やかな配慮を欠かさないう心がけました。



看護に福祉の視点を。多職種連携に活きる「環境へのアプローチ」

渡辺 忍さん
2020年3月 社会福祉学研究科 博士後期課程 修了
茨城県立医療大学 保健医療学部看護学科 准教授

研究テーマ 在宅医療・介護連携における情報共有のあり方ーインスリン療法を行う要介護者支援をモデルにー

看護師として独居高齢者を支援するうちに、看護の知識だけでは不十分だと感じ、社会福祉学の名門である日本社会事業大学の大学院への進学を志望しました。在学中は、在宅医療と介護をつなぐ情報共有のあり方を研究。福祉学の視点から助言をいただき、「個人」に焦点をあてがちな医療に対し、解決すべき課題を本人の「周囲(環境や制度)」に見出す福祉の本質にふれ、視野が広がりました。現在は老年看護学の大学教員として、生活環境を整えることでその人らしい暮らしを支援する視点を学生に伝えています。学んだ知見を地域に還元し、医療と福祉の垣根を越えてともに探究する仲間を増やしたいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫 隙間時間も有効活用を

茨城県からの遠距離通学やこどもの受験、学費捻出のための勤務で多忙を極めて休学も経験しました。しかし、長い通学時間に思索を深め、寸暇を惜しんだからこそ、研究に向き合えたのかもしれません。

修士論文題目(博士前期課程)

2025年度
在日コリアン高齢者特有のニーズとマイノリティ性に起因する困難感に配慮した介護の提供体制 ～特別養護老人ホームにおける施設管理者・介護支援専門員・介護職員等の対応に着目して～
認知症介護の家族会に対する支援におけるファシリテーターの役割に関して 介護老人福祉施設における中国人介護職員の就労定着に至るプロセスと支援体制の構築に向けての一考察
認知症高齢者の日常生活における〔意思形成支援〕の検討 ～介護福祉士の実践に着目して～
マルトリートメントの予防とヤングケアラーの状態が深刻化しないための支援に関する研究 ～精神疾患等のある親と暮らす子どもへの支援に焦点を当てて～
外国にルーツを持つ中高生の進路選択に影響を与えるきっかけと要因に関する研究
性別違和を抱える子どもへの支援 ～スティグマがもたらす困難に対するGSA活動の可能性に着目して～

2024年度
家庭環境に課題のある中高生年齢の子どもへの支援に関する研究 ～児童館職員の18歳以降を見据えた関わりに関する分析～
福祉型障害児入所施設における児童から職員への暴力の実態および対応のあり方について コロナ特例貸付利用世帯への支援におけるコミュニティソーシャルワーク機能の分析 ～社会福祉協議会における生活困窮世帯への支援に焦点を当てて～
地域分散型小規模児童養護施設におけるケア支援に関する研究 ユースセンターにおける利用者の居場所形成過程に関する研究～ロビーワークの役割に着目して～
2023年度
児童養護施設のケアワーカーのアセスメントの視点・行動の研究 ～家庭的養育に対応する生活支援からの自立支援計画に焦点を当てて～
児童養護施設職員の勤務継続を促進する職場環境づくりの実践に関する研究 ～TOKYO働きやすい福祉の職場宣言に視点を当てて～
民生委員のソーシャル・キャピタルに関する研究～委員活動継続に向けて～
障害のある子どもをもつ保護者への支援に関する研究 ～エンパワメントの視点に立った支援に焦点を当てて～

博士論文題目(博士後期課程)

2025年度
博甲第91号 脱施設化に向けた関係機関が集まる有機的な協働組織のあり方: 精神科長期入院に対する効果的な地域移行・地域定着支援プログラムの実施度向上に関連する場の機能
博甲第90号 在日ムスリム移民女性の妊娠・出産・子育て期における生活困難と多文化ソーシャルサポートに関する研究
博甲第89号 「移行滞留型」(精神障害)利用者の就労意向を実現する効果的支援モデルの提示 ～就労継続支援B型事業所において、心理社会的支援(個別支援・集団支援)を含むソーシャルワーク・アプローチに注目して～

2024年度
博甲第88号 特別養護老人ホームにおける機能訓練指導員の他職種連携の取り組み ～利用者の生活機能に着目した機能訓練体制の構築に向けて～
2023年度
博甲第85号 育児と介護のダブルケア期に働く女性への仮説的支援モデルに関する研究 ～ワーク・ファミリー・コンフリクトとストレスの視点から～
博甲第86号 児童養護施設における共感疲労の精緻化に関する研究 ～インタビュー調査を通して～
博甲第87号 保健指導員の高齢者福祉における活動継続に関する研究 ～長野県須坂市の事例をもとにして～

緑字:学位 黒字:題目

学長メッセージ

研究と実践で、福祉の未来を切り拓く

「福祉のリーダー」を養成する大学院

日本社会事業大学の誇りは、日本で最も古い社会福祉の専門大学として、国から「指導的な社会福祉従事者の養成」を委託された大学としての使命をもって、日本の社会福祉をリードした人材を多数養成してきたことにあります。

本学は、こうした使命を果たすために、学部・大学院・通信教育科・附属子ども学園を設けて、福祉の総合大学として先進的な教育研究体制を整えています。

本学大学院には、福祉社会の創造と福祉文化の発展に貢献するために、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)と社会福祉学研究科(研究大学院)が設置されています。福祉マネジメント研究科は実践研究を通じ福祉現場で指導的な役割を担うソーシャルワーク専門職を養成することをめざし、社会福祉学研究科は科学的研究を通じ日本の社会福祉をより良いものに変革する福祉専門家を養成することをめざしています。

皆様には、本学大学院に進学することで、福祉の学部教育だけでは乗り越えられない、また福祉の現場実践だけでは乗り越えられない福祉分野の諸課題を見据え、自ら研究課題を設定し、先行研究を踏まえ、的確な研究方法に基づき、新たな知見や解決の糸口を探り出し、日本の福祉現場と社会福祉をより良いものに変革くださるよう、心より期待しております。



日本社会事業大学
学長 横山 彰

横山彰学長の
略歴・研究業績はこちら

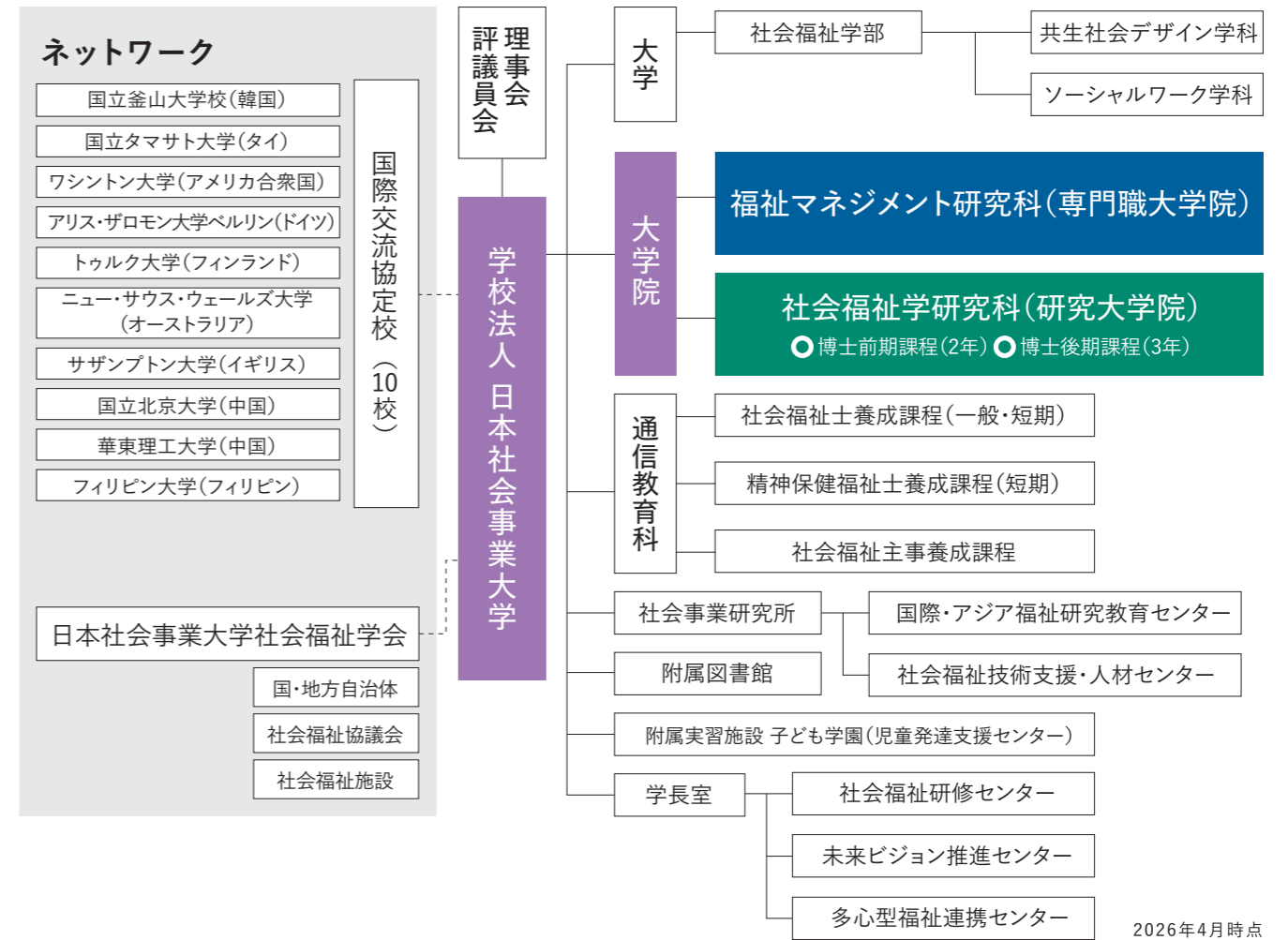


profile 博士(経済学)(慶應義塾大学) 専門:財政学、経済政策、公共選択
慶應義塾大学経済学部卒業、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
城西大学経済学部教授、中央大学総合政策学部教授などを経て、2021年4月より本学学長
日本経済政策学会会長、日本財政学会代表理事、東京都税制調査会会長などを歴任し、現在は社会福祉法人浴風会理事、
社会福祉法人恩賜財団済生会評議員なども務める

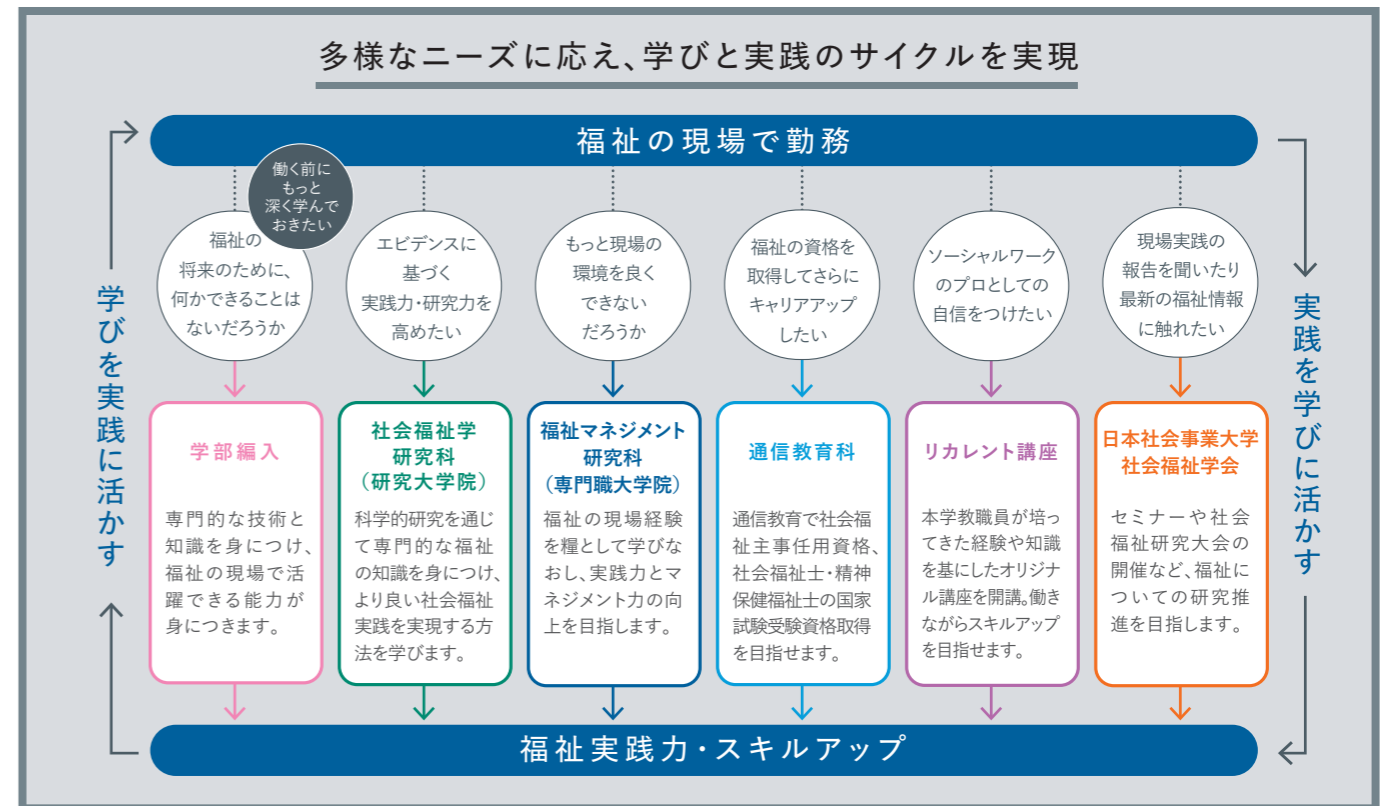
沿革

- 1908 (明治41)年10月
中央慈善協会設立(本学の淵源)
- 1921 (大正10)年3月
社会事業協会設立(中央慈善協会を改称)
- 1924 (大正13)年3月
財団法人中央社会事業協会設立
(社会事業協会を改称)
- 1928 (昭和3)年4月
社会事業研究生制度発足
- 1946 (昭和21)年11月9日
日本社会事業学校創立
東京都牛込区原町に開校
- 1947 (昭和22)年4月
財団法人日本社会事業協会設立
(財団法人中央社会事業協会を改組)
日本社会事業専門学校開校
- 1948 (昭和23)年1月
東京都渋谷区原宿に移転
- 1950 (昭和25)年4月
日本社会事業短期大学開学
- 1951 (昭和26)年3月
学校法人日本社会事業学校設立
(財団法人日本社会事業協会を改組)
- 1958 (昭和33)年4月
日本社会事業大学開学
- 1962 (昭和37)年4月
学校法人日本社会事業大学設立
(学校法人日本社会事業学校を改称)
- 1989 (平成元)年4月
東京都清瀬市に校舎移転
大学院社会福祉学研究科修士課程開設
- 1994 (平成6)年4月
大学院社会福祉学研究科博士後期課程設置
- 2004 (平成16)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
大学院福祉マネジメント研究科
専門職学位課程開設
- 2009 (平成21)年4月
大学院福祉マネジメント研究科に
長期履修制度(2年履修)を導入
- 2013 (平成25)年4月
附属実習施設「子ども学園」は
児童発達支援センターに改変
- 2016 (平成28)年10月
社会事業研究所に
国際・アジア福祉研究教育センター
社会福祉技術支援・人材センター設置
- 2016 (平成28)年11月
日本社会事業大学 創立70周年
- 2017 (平成29)年4月
ボランティアセンター開設
- 2018 (平成30)年4月
学長室設置
- 2024 (令和6)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
創立20周年
- 2026 (令和8)年11月
日本社会事業大学 創立80周年

組織図



2026年4月時点



学費

1年 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)

費目		1年次
学費等	入学金	282,000
	授業料(全納)	535,800
	教育充実費	300,000
	諸会費	3,000
合計(全納)		1,120,800
学費等(分納)	前期分	852,900
	後期分	267,900

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料はスライド制を導入しており、在学中に授業料の改正があった場合には、授業料の額を変更することがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学学部を卒業した者、本大学院博士前期課程を修了した者が本大学院に入学する場合は入学金を徴収しません。
- 本学(学部・大学院)卒業見込者の学内社会福祉学会費について、標準履修者は1,500円、長期履修者は3,000円です。

2年 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)

費目		1年次	2年次	合計
学費等	入学金	282,000	—	282,000
	授業料(全納)	267,900	267,900	535,800
	教育充実費	300,000	200,000	500,000
	諸会費	4,500	—	4,500
合計(全納)		854,400	467,900	1,322,300
学費等(分納)	前期分	720,450	333,950	1,322,300
	後期分	133,950	133,950	

博士前期課程(修士課程) 社会福祉学研究科 (研究大学院)

費目		1年次	2年次	合計
学費等	入学金	282,000	—	282,000
	授業料(全納)	535,800	535,800	1,071,600
	教育充実費	200,000	180,000	380,000
	諸会費	4,500	—	4,500
合計(全納)		1,022,300	715,800	1,738,100
学費等(分納)	前期分	754,400	447,900	1,738,100
	後期分	267,900	267,900	

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学学部を卒業した者、本大学院専門職学位課程を修了した者が本大学院博士前期課程へ入学する場合は、入学金を徴収しません。
- 本学(学部)卒業者の学内社会福祉学会費は4,500円、卒業見込者は3,000円です。

博士後期課程(博士課程) 社会福祉学研究科 (研究大学院)

費目		1年次	2年次	3年次	合計
学費等	入学金	282,000	—	—	282,000
	授業料(全納)	535,800	535,800	535,800	1,607,400
	教育充実費	200,000	180,000	180,000	560,000
	諸会費	6,000	—	—	6,000
合計(全納)		1,023,800	715,800	715,800	2,455,400
学費等(分納)	前期分	755,900	447,900	447,900	2,455,400
	後期分	267,900	267,900	267,900	

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 本学学部を卒業した者、本大学院博士前期課程または専門職学位課程を修了した者が本大学院博士後期課程へ入学する場合は、入学金を徴収しません。
- 本大学院博士前期課程または専門職学位課程より引き続き入学する者の教育充実費については入学初年度に180,000円を徴収します。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学(博士前期課程・専門職学位課程)卒業者の学内社会福祉学会費は6,000円、卒業見込者は4,500円となります。

授業料等の延納制度

対象者	条件	種別
福祉マネジメント研究科(専門職大学院)・社会福祉学研究科(研究大学院)の入学学生	特別な事情により授業料及び諸納金*の納付が困難である者	延納(授業料・諸納金*)

*教育充実費、諸会費

奨学金

名称	条件	種別	金額	返還	募集	備考
大学院学内給費生制度	学業成績・人物ともに優秀で経済的事由により授業料の納付が困難な学生	給付	授業料年額と教育充実費を合計した額的全額、半額、または25%	返還義務なし	在学生前年度1月 新入生7月	単年度のみ
障害学生奨学金給付制度	身体等の障がい起因して修学上特別な経済的支出を必要とする学生	給付	当該学生の年間教育充実費相当額を上限とする	返還義務なし	1月 ※入学後に申請方法等の詳細を説明します。	単年度のみ。 消耗品など主に物に対するの給付。給付は会議にて決定。
独立行政法人日本学生支援機構奨学金第一種	教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与するもので、人物・学業ともに特に優れかつ健康であって経済的理由により修学に困難があると認められる者	貸与	(月額) <博士前期、専門職> 50,000円、88,000円から選択 <博士後期> 80,000円、122,000円から選択	卒業後無利子で返還	4月	貸与期間は最短在学年数 ※特に優れた業績による返還免除もあります(第一種)。
独立行政法人日本学生支援機構奨学金第二種			(月額) 50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択	卒業後有利子(利率上限3.0%)で返還		

●その他の奨学金

地方公共団体、民間団体・企業などでは大学院生を対象にした奨学金制度・研究助成金制度などを行っています。個人的に調べた奨学金制度で申し込みをしたいものがありましたら、学生支援課まで相談してください。また、留学生を対象とした奨学金は、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費、公益財団法人平和中島財団などの受給実績があります。これらの奨学金制度の募集時期は、おおむね4月～5月です。詳細については、各自出身自治体などの関係諸機関、または民間団体・企業などに問い合わせてください。 ※障がい学生に対する学習環境支援等経費(主に情報保障など人的な支援の経費)の支給制度(当該年度の5月申請)もあります。支給限度額は毎年度設定。入学後に申請方法等の詳細を説明。支給は会議にて決定。

福祉マネジメント研究科(専門職大学院) 対象

専門実践教育訓練給付制度

申請できる方	本学福祉マネジメント研究科標準修業年限1年で修了する学生で、受講開始日現在で雇用保険の被保険者であった期間が3年以上(初めてのの方は当分の間2年以上)等条件を満たした方
給付額	(a)訓練費用の50%(年間40万円上限) (b)受講終了日の翌日から起算して1年以内に一般被保険者として雇用されている場合訓練費用の20%を追加給付 (c)上記に加え、講座修了後の賃金が開始前と比較し、5%以上上昇した場合 10%を追加給付 ※(a)(b)(c)合計80%(年間64万円上限) ※専門実践教育訓練給付制度は、受講開始(入学)原則2週間前までに必ず受講申請を終える必要があります。

教育訓練給付制度とは、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。
※申請手続き、支給条件等の詳細につきましては、ハローワークまで問い合わせください。

進路・就職(継続勤務を含む)

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)生の多くは、仕事と学びを両立させながら、研究に励んでおり、修了後も同一職場で勤務を継続しています。転職・就職を希望する場合は、学生支援課と担当教員でサポートします。

社会福祉学研究科(研究大学院) 博士前期課程

福生市/日野市/国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院/格心会晴明病院/社会福祉法人旭児童ホーム/(株)ニチイホールディングス/田園調布学園大学/DCネット/日本社会事業大学大学院/相模原市/学校法人三幸学園/ビーサイドユウ(株)/(株)みらい/漢陽大学

社会福祉学研究科(研究大学院) 博士後期課程

学校法人身延山学園身延山大学/岩手県立大学/佐久大学/熊本学園大学/弘前学院大学/国際武道大学

入試概要

福祉マネジメント研究科(専門職大学院)

◆2027年度入試概要

入試区分	出願資格	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日	
有資格者入学試験	大学卒業相当者で、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保健師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師のいずれかの国家資格取得後、社会福祉関連領域の職場において3年以上の実務経験を有する者	50名 (修業年限1年ただし、長期履修生は2年)	小論文 面接審査 書類審査	第Ⅰ期 11/2(月)～11/16(月)			
一般入学試験	大学卒業相当者で、3年以上の社会人経験を有する者		小論文 筆記試験(語句説明) 面接審査 書類審査	第Ⅱ期 12/14(月)～1/4(月) 第Ⅲ期 2/1(月)～2/12(金) 第Ⅳ期 2/15(月)～2/26(金)	第Ⅰ期 12/6(日) 第Ⅱ期 1/24(日) 第Ⅲ期 2/20(土) 第Ⅳ期 3/6(土)	第Ⅰ期 12/16(水) 第Ⅱ期 1/29(金) 第Ⅲ期 2/24(水) 第Ⅳ期 3/6(土)	
推薦入学試験	推薦指定法人試験		大学卒業相当者で本学が指定する法人の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該法人から推薦が得られる者で、復職が保証されている者	小論文 面接審査 書類審査	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(それぞれ11/16、1/4、2/12、2/26の消印有効)		
	推薦地方公共団体試験		大学卒業相当者で地方公共団体の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該自治体から推薦が得られる者で、復職が保証されている者				

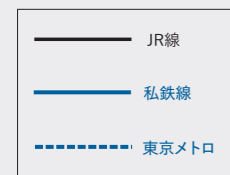
※第Ⅳ期については早期に募集人員に達した場合、実施しないことがあります。 ※本学通信教育科を修了し、修了証書の写し(または、修了証明書を提出した者は、入学検定料が減額されます。 ※詳細は「2027年度入学試験要項」でご確認ください。

◆2026年度入試結果

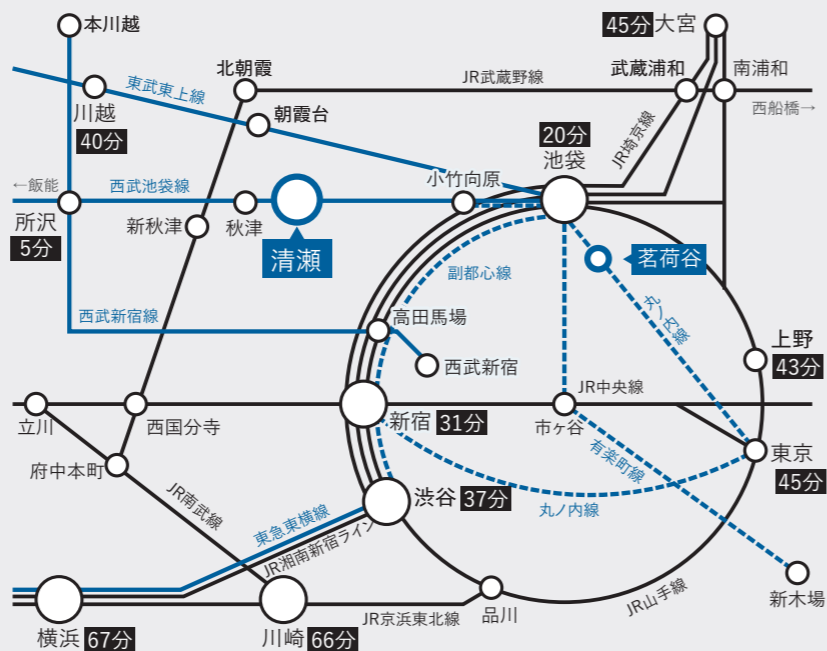
入試区分	志願者	合格者
有資格者入学試験	31	30
一般入学試験	5	4
指定法人推薦入学試験	3	3
地方公共団体推薦入学試験	0	0
計	39	37

Access

都心へも快適アクセス 緑豊かな街、清瀬



※下記の時間は、清瀬駅までの所要時間です。
※所要時間は目安です。
乗り継ぎ時間・交通状況により変化する場合があります。



社会福祉学研究科(研究大学院)【博士前期課程(修士課程)】

◆2027年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 15名 (修業年限2年)	社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・英語・口述試験	前期第Ⅰ期 9/7(月)～9/18(金)	前期第Ⅰ期 10/3(土)	前期第Ⅰ期 10/14(水)
リカレント入学及び福祉関係職経験者入学		社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・口述試験	前期第Ⅱ期 12/21(月)～1/8(金)	前期第Ⅱ期 2/10(水)	前期第Ⅱ期 2/24(水)
学内推薦入学及び留学生入学		小論文・口述試験	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(それぞれ9/18、1/8の消印有効)		

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試課にご確認ください。 ※詳細は「2027年度入学試験要項」でご確認ください。

◆2026年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
一般入学	1	1
リカレント入学	0	0
福祉関係職経験者入学	3	2
留学生入学	2	1
学内推薦入学	2	2
計	8	6

社会福祉学研究科(研究大学院)【博士後期課程(博士課程)】

◆2027年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 5名 (修業年限3年)	英語・小論文・口頭試問	12/21(月)～1/8(金)	2/12(金)	2/24(水)
学内推薦入学		小論文・口頭試問	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(1/8の消印有効)		

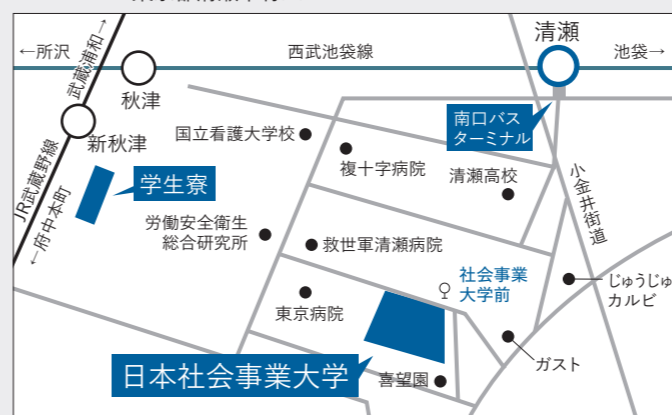
※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試課にご確認ください。 ※詳細は「2027年度入学試験要項」でご確認ください。

◆2026年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
一般入学	5	3
学内推薦入学	4	2
計	9	5

●清瀬キャンパス(大学・大学院)

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30



西武池袋線「清瀬」駅下車。南口バスターミナル2番乗り場より、西武バスに乗りし「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ。
・下里 団地行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・花小金井駅行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・滝山営業所行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ

●文京キャンパス(サテライトキャンパス)

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-12



東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車、徒歩5分。駅前より春日通りに出て、後楽園方面へ。ファミリーマート手を左折し、1つ目の信号を右へ。

説明会開催日程

大学院案内だけでは伝えきれない両研究科の魅力をお伝えします。
詳細はホームページで確認の上、ご参加ください。

■ 福祉マネジメント研究科(専門職大学院) 開催日程

日程	開催時間	内容	場所
9月4日(金)	18:30~20:30	説明会・個別相談会	オンライン
10月3日(土)	10:00~11:30	模擬授業	オンライン
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	
10月17日(土)	10:00~11:30	模擬授業	文京キャンパス
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	
11月6日(金)	18:30~20:30	説明会・個別相談会	オンライン
12月12日(土)	10:00~11:30	模擬授業	オンライン
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	
1月9日(土)	10:00~11:30	模擬授業	文京キャンパス
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	
1月23日(土)	10:00~11:30	模擬授業	オンライン
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	
2月6日(土)	10:00~11:30	模擬授業	オンライン
	11:35~13:30	説明会・個別相談会	

■ 社会福祉学研究科(研究大学院) 開催日程

日程	開催時間	内容	場所
5月30日(土)	12:30~15:00	説明会・個別相談会	オンライン
7月25日(土)	12:30~15:00		
8月22日(土)	12:30~15:00		
11月14日(土)	12:30~15:00		
12月5日(土)	12:30~15:00		

参加方法

本学Webサイトからお申し込みください。

日程・内容は変更になる場合がありますので、
最新情報は本学Webサイトにてご確認ください。

URL <https://jcsw.ac.jp/>

お問い合わせ

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

広報・高大連携室 TEL.042-496-3083 FAX.042-496-3081

説明会の参加には
予約が必要です。

予約は
こちらから▶



最新情報を
SNSでお届け



LINE



X



Facebook



YouTube

説明会や入試日程などの情報を
SNSで発信中!

 日本社会事業大学大学院

<https://www.jcsw.ac.jp/>

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

代 表 / TEL.042-496-3000 FAX.042-496-3001

広報・高大連携室 / TEL.042-496-3083 FAX.042-496-3081

福祉マネジメント研究科
Webサイト



社会福祉学研究科
Webサイト

